

筑波大学  
附属図書館ボランティアのあゆみ  
—10周年を記念して—



# 筑波大学附属図書館ボランティアのあゆみ

－ 10周年を記念して －

筑波大学附属図書館



## 10周年を祝して

国立大学法人筑波大学長 岩崎 洋一

附属図書館ボランティア制度が発足（平成7年6月）して10年の節目の年に、10周年記念式典の挙行並びに同記念誌が刊行されましたことを、心よりお祝い申し上げます。

附属図書館ボランティアの活動は、自らの意志に基づき、生涯学習の一環として図書館の利用者に対するサービスを行うことを目的に、発足当時から、40数名のボランティアと附属図書館が一体となってボランティア活動を推進し、全国の国立大学の先駆的役割を果たしていると承知しています。これもひとえに附属図書館と同ボランティアの皆様のご尽力によるものと感謝申し上げます。

筑波大学は平成16年4月1日をもって国立大学法人として発足しました。本学は、創立から今日まで全国の大学に先駆けて数々の先導的な試みを実施してきた特色を活かし、これからも改革を先導し、国際的にさらに存在感のある自立した大学として発展していきたいと思えます。また、筑波研究学園都市にある各研究機関との連携や社会・地域との交流も積極的に進め、「開かれた大学」という創設の理念に基づき、教育・研究・社会貢献を推し進め、これまで以上に自主的かつ柔軟な大学運営に取り組んでいます。

これからも附属図書館と同ボランティアの皆様には、社会貢献の一層の充実並びに生涯学習を通して培われた知識をボランティア活動に活かし、筑波大学の発展に寄与されることをお願いしてご挨拶いたします。

# 目次

10周年を祝して	筑波大学長 岩崎洋一	3
目次		5
附属図書館ボランティア10周年に当たって	附属図書館長 植松貞夫	6
満足、誇り、そして感謝	山内芳文	7
ボランティア活動10年のあゆみ		8
設置経緯		
附属図書館ボランティアについて		
ボランティア研修等記録		
ボランティア活動状況		
ボランティア活動記録		
筑波大学附属図書館ボランティアの会「図・ボラの会」		31
主な活動内容		
「図・ボラの会」の軌跡		
ボランティア導入10年、そして今後		37
図書館ボランティアの課題	徳田克己	
座談会「ボランティアのこれから」		
関係資料		44
筑波大学附属図書館ボランティア受入れ及び活動実施要項		
筑波大学附属図書館ボランティア募集要項（平成17年度）		
筑波大学附属図書館ボランティア申込書（平成17年度）		
筑波大学附属図書館ボランティアの登録状況（平成17年度）		
附属図書館ボランティア関係スケジュール（平成17年度）		
附属図書館ボランティア活動内容細目と担当（平成17年度）		



## 附属図書館ボランティア10周年に当たって

附属図書館長 植松 貞夫

附属図書館ボランティア制度発足から今年で10周年を迎えました。本制度が成功裡に10周年を迎え、更なる充実にむけて記念式典の挙行ならびに記念誌の刊行ができましたことは、ひとえにボランティアの皆さまに負うところであり、まずもって、これまでおよび現在のボランティアの皆さまに心から御礼申し上げます。

発足当時のもとより現在においても、国立のみならず公立、私立の大学図書館に例を見ない先駆的な制度であり、50名に近いボランティアを得ての運用であることは本附属図書館の誇りとするところです。未だこれに続く類例のない一方で、生涯学習の中核施設として図書館の社会貢献の充実が喫緊の課題とされている今日状況を省みず、本制度を発想し実現させた当時の北原保雄館長はじめ職員の皆さんの先見性と実行力に敬意を表させていただくとともに、一貫して理解と協力を賜った筑波大学当局ならびに関係教職員各位に感謝申し上げます。

附属図書館ボランティアの活動は、利用者に対する援助のため、自らの意志に基づき、ご自身の生涯学習の一環として、その知識・技能を無償でご提供いただくものです。1992年の生涯学習審議会の答申は、ボランティア活動と生涯学習について、(1) ボランティア活動そのものが自己開発、自己実現につながる生涯学習、(2) ボランティア活動を行うために必要な知識・技術を習得するための学習が生涯学習、(3) 生涯学習支援ボランティアの活動によって生涯学習が振興できる、の3点を挙げておりますが、「図書館総合案内」、「対面朗読等身体に障害を有する利用者支援」、「利用環境整備」、「体育・芸術関係資料整理」などの対利用者支援活動、これら活動に必要な知識・技術の習得などを目的とするフォローアップ研修など学習活動、および英会話やカウンター活動研究会などの自主的なグループ活動などからなる本図書館ボランティアの活動は、まさにこの好例です。

このボランティア活動は、利用者から好評であることはもちろん、図書館職員へ与えてきた影響もきわめて大きく、両者が協調しての図書館サービスの向上が実現しています。

さて、平成16年4月の国立大学法人化は、国立大学制度の根幹からの大改革であり、国立大学には自立と自律に基づく運営により、「教育」「研究」「社会への公開」の3要素のいずれにおいても、より一層の拡充と社会への説明責任が求められています。附属図書館は、大学の教育と研究の基盤施設であり、社会への情報発信の主要な窓口であることから、図書館の機能とサービスをこれまで以上に強化することで、これに向けた大学の取り組みに貢献していかなければなりません。

そこで附属図書館は、平成16年度から「来館したくなる図書館」「頼られる図書館」となることを目標に掲げました。このためには、豊富な資料・情報と快適な利用環境を備え、資料・情報と利用者を結びつける存在としての職員とボランティアとが一体となったサービスを展開することが必要であり、そのための人と資金との適切な配分の態勢を構築する所存です。

今後ともボランティアの皆さまのご支援を得て、利用しやすい図書館としていきたいと思っております。附属図書館と同ボランティアの活動に対する一層のご理解とご協力をお願いいたします。

(うえまつ・さだお 大学院図書館情報メディア研究科教授)



## 満足、誇り、そして感謝

山内 芳文

附属図書館でボランティア活動のことが話題となったのは、それが実際に活動が開始されるよりもかなりまえのことであったように思います。当時、本学では、附属病院にその先例がありましたが、国立科学博物館や国立婦人教育会館などから関連する情報を集めて、それに備えた記憶があります。そのような因縁から、活動が本格的に開始されて以来、相当の期間にわたって、図書館ボランティアの活動に深く関わらせていただき、またその担い手のかたがたとも深い交友をもたせていただきました。

なかでも記憶に新しいのは、はからずも館長職を拝命してまもなく関わった大学評価・学位授与機構による国立大学すべてを対象とした「教育サービスの社会貢献」に関する評価で、附属図書館がボランティア活動の先駆的な導入によって、望外の、というより実績からして予想通りの結果を得たことです。記憶に新しいと申しましたが、現在その大学評価・学位授与機構の評価研究部に兼務していますので、中央図書館に出かけると、そのときの満足と誇り、そして感謝の気持ちが今更のようにしみじみとよみがえってきます。

ボランティアのかたがたがそれぞれの関心で、大学図書館を場にいろいろな活動を展開されていることは、図書館の業務からすっかり離れ、今のようにまったくただの一利用者になってしまうと、その実像はなかなか見えてはきません。しかしながら、図書館におけるボランティア活動は、けっして図書館業務の援助などではなく、図書館の業務に積極的に関わることで、自ら主体的な学習に参画するという、つまり生涯学習活動そのものなのですから、それはそれでよいのです。

とはいっても、評価、評価ととかく喧しいこの時期に、せつかく高い評価を得たボランティア活動が、優秀な職員のなかに混じってしまい、ただボランティアカウンターしか一般の利用者の目に入らないのはなんとも惜しい気がしています。その活動をもっと一般の利用者に知ってもらったり、また一般の利用者と関わりをもってもらうことも必要かと秘かに思うのです。若手の先生からの是非にとの要望を受けて、学類（学部）の生涯学習論の授業にも出講していただき、学生諸君の興味を喚起していただいたこともありましたが、これからは公開講座などにももっと積極的に関わりを広げて、学内でおおいにアピールしてほしいものと願っています。

老い先が短くなってきたこのところ、調べものに慌ただしく急かされ、追い立てられて、図書館の世話になることが多くなってきました。このようなわけで、今になっても、相変わらず、図書館からは計り知れない恩恵を受けています。できたら、自分自身もボランティアに志願して、恩返しかたがた余生を充実した生涯学習に、とも思っていますが、それは半ば本気。そして半ば冗談で、夢です。きっと、他ならぬボランティアのかたがたの厄介者になること必定でしょうから。

(やまうち・よしふみ 大学院人間総合科学研究科教授・元附属図書館長)

# ボランティア活動10年のあゆみ

## ■設置経緯

筑波大学附属図書館は、平成4年7月の生涯学習審議会答申を受け、ボランティア活動を支援・推進するために、国立大学図書館として全国で初めて「図書館ボランティアの導入」を決定し、平成7年5月30日に、自らの意志に基づき、生涯学習の一環として図書館の利用者に対するサービスを行うことを目的に「筑波大学附属図書館ボランティア」を発足しました。本学附属図書館は、これからも全国大学図書館の先導的役割を果たしつつ、開かれた大学図書館として、地域社会及び研究学園都市の各機関を含む、国内外の研究・教育機関と連携し、学術情報の中枢的拠点として機能することを目標に、活動を推進しています。



- 平成5年4月 図書館部に附属図書館ボランティア受入れに関する検討委員会を設置
- 平成6年3月 附属図書館ボランティア受入れに関する検討委員会「ボランティアの導入について」検討結果答申
- 平成6年5月 図書館部にボランティア導入試行準備委員会を設置
- 平成6年10月 附属図書館運営委員会にボランティア活動連絡会議準備委員会を設置
- 平成7年2月 附属図書館運営委員会に附属図書館ボランティア活動委員会を設置
- 平成7年3月 文部省に附属図書館ボランティアの受入れについて説明  
附属図書館ボランティアの受入れについて記者発表
- 平成7年5月 附属図書館ボランティア発足式（30日）を実施
- 平成7年6月 ボランティア活動開始
- 平成7年7月 ボランティアの親睦団体「図・ボラの会」発足
- 平成9年6月 大学図書館ボランティアの導入事業に対し、国立大学図書館協議会賞受賞
- 平成11年12月 附属図書館運営委員会にボランティア専門委員会を設置
- 平成12年6月 附属図書館ボランティア5周年記念式（9日）を実施
- 平成17年5月 附属図書館ボランティア10周年記念誌を発行
- 平成17年6月 附属図書館ボランティア10周年記念式典（1日）を実施

## ■ 附属図書館ボランティアについて

附属図書館の利用者に対する援助のため、自らの意志に基づき生涯学習の一環として、その知識・技能を無償で提供するものとして行われています。主な活動として、図書館総合案内、対面朗読、利用環境整備、体育・芸術関係資料整理などを行っていますが、各自の希望によって図書館見学案内、外国人に対する図書館利用支援、公開事業協力、ボランティア活動の広報なども行っています。毎年約50名のボランティアが、月～金の10時～12時または13時～16時に毎週1回以上活動しています。決められた活動以外にも、下記のような行事等があります。

### ・フォローアップ研修

附属図書館ボランティアの活動に必要な知識の習得を目的として、前期は研修会、後期は見学会を中心に行っています。研修会は、主に図書館の業務紹介や、必要と思われる知識の習得を目的としています。見学会は年に2回開催され、筑波大学の学内施設見学と大学外の学外施設見学を行っています。

### ・ボランティア懇談会（連絡会→懇談会と名称変更）

ボランティア活動の円滑な推進をはかるため、図書館とボランティアが相互の意思疎通を図り、ボランティア活動の企画・連絡等について基本的な合意を得るための会として、図書館長の主催で年に2回開催しています。

### ・ボランティア講演会

附属図書館ボランティアの教養の向上と、ボランティアに大学の教育的機能の一端を経験させるという観点から、主に本学教員の協力を得て開催しています。

### ・ボランティア打合せ会

原則として毎月1回、「図・ボラの会」世話人会の後、図書館担当者と「図・ボラの会」役員が実務的な内容の意見交換を行っています。

### ・ボランティアアンケート

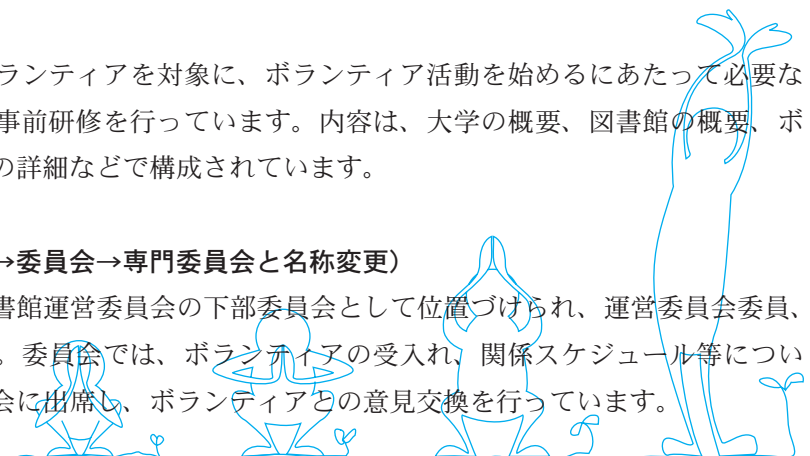
次年度の計画立案の参考として、活動内容、研修等各種行事についてのアンケートを行っています。さらに、アンケートは次年度登録意向調査も兼ねています。

### ・新規ボランティア事前研修

次年度に新規登録を予定しているボランティアを対象に、ボランティア活動を始めるにあたって必要な知識を提供する目的で、述べ10時間の事前研修を行っています。内容は、大学の概要、図書館の概要、ボランティアの受入れ体制、各活動内容の詳細などで構成されています。

### ・ボランティア専門委員会（準備委員会→委員会→専門委員会と名称変更）

ボランティア専門委員会は、附属図書館運営委員会の下部委員会として位置づけられ、運営委員会委員、附属図書館職員等で構成されています。委員会では、ボランティアの受入れ、関係スケジュール等について審議しています。また、委員は懇談会に出席し、ボランティアとの意見交換を行っています。



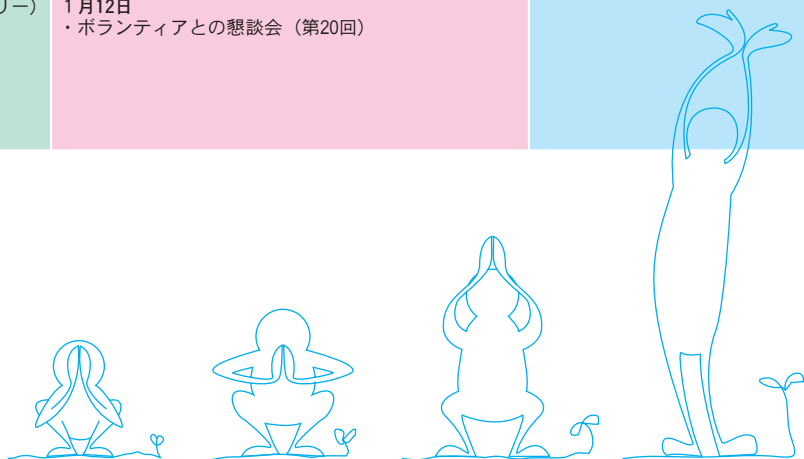


# ボランティア研修等記録

年間スケジュール	
附属図書館	「図・ボラの会」
ボランティア専門委員会（年2回） ボランティア懇談会（年2回） ボランティア講演会（年1回） ボランティア打合せ会（月1回） フォローアップ研修 ・前期 研修会（2回） ・後期 研修会（1回）、施設見学（学内外、各1回） ボランティアアンケート（年1回） 事前研修（新規登録者対象）	世話人会（月1回） 各種勉強会 自主研修（見学および交流会） 「図・ボラの会」会報発行（月1回） 利用者向け広報紙「うたがき」発行（年1回） ボランティア交流会（年2回） 留学生向けおりがみ講習会

年度	研修会等	講演会・懇談会等	「図・ボラの会」関係
7	4月26～27日、5月8～12日、15～18日 ・平成7年度新規登録ボランティア事前研修 7月5日～31日 ・フォローアップ研修 9月25日、10月4日、10月13日、11月7日 ・追加研修 3月11日～13日 ・平成8年度新規登録ボランティア事前研修	9月19日 ・ボランティアとの連絡会（第1回） 2月20日 ・ボランティアとの連絡会（第2回）	7月 ・「図・ボラの会」発足 7月27日 ・「図・ボラの会」会報創刊号
8	5月22日 ・貴重書常設展示の概要説明 9月10日 ・蔵書検索オリエンテーション（新図書館システム紹介） 9月19日 ・特別展「宇野文庫展」概要説明会 9月27日 ・学内施設見学（留学生センター） 10月9日 ・学外施設見学（東京都立中央図書館） 10月22日 ・特別展「幕末・明治の生活と教育」概要説明会 3月13日～19日 ・平成9年度新規登録ボランティア事前研修	6月4日 ・附属図書館ボランティア1周年記念特別講演 「辞書の話」 講師：北原保雄附属図書館長 ・ボランティアとの連絡会（第3回） 11月3日 ・特別展「幕末・明治の生活と教育」記念講演 「近代日本の黎明と欧米教育への関心」 講師：教育学系山内芳文教授 12月6日 ・ボランティアとの連絡会（第4回）	6月21日 ・「図・ボラの会」会則制定 9月2日 ・「うたがき」創刊号 1月22日 ・筑波大学教育学系手打先生講義参加・発表
9	7月4日 ・相互利用窓口業務紹介 7月10日 ・レファレンスデスク業務紹介 7月16日 ・メインカウンター業務紹介 10月14日 ・学内施設見学（低温センター） 11月4日 ・学外施設見学（国立国会図書館） 11月13日～14日 ・見学案内研修 12月12日 ・各種利用申込書の記入指導説明会 3月11日～17日 ・平成10年度新規登録ボランティア事前研修 3月12日 ・パソコン画面読み上げソフト操作説明会	6月3日 ・附属図書館ボランティア2周年記念式・講演会 「文部省におけるボランティアに関する施策について」 講師：大西珠枝文部省婦人教育課長 ・ボランティアとの懇談会（第5回） 8月4日 ・学外特別展「明治のいぶき」記念講演会 「発見の心」 講師：江崎玲於奈学長 「明治一庶民娯楽と学習」 講師：教育学系山本恒夫教授 12月2日 ・ボランティアとの懇談会（第6回） 1月21日 ・附属図書館公開講演会 「明治の日本人の見た西洋と西洋人のイメージ」 講師：H.O.ロータモンド氏（仏国立高等研究院教授） 3月23日 ・附属図書館公開講演会 「生涯学習社会のボランティア」 講師：伊藤俊夫東京家政大学・大学院教授	9年3月～10年3月 ・留学生対象リーディングサービ（全5回）
10	7月6日 ・メインカウンター業務紹介 7月14日 ・レファレンスデスク業務紹介 11月11日、16日 ・見学案内研修 11月24日 ・学内施設見学（大塚図書館） ・学外施設見学（東京大学総合図書館・史料編纂所） 3月10日～16日 ・平成11年度新規登録ボランティア事前研修	4月24日 ・ボランティアとの懇談会（第7回） 6月1日 ・附属図書館ボランティア記念式・講演会 「ことばの中の世界」 講師：齋藤武生附属図書館長 9月11日 ・開学25周年記念特別展記念講演会 「初版本の魅力」 講師：小笠原道雄広島大学副学長 12月7日 ・ボランティアとの懇談会（第8回）	9月17日～18日 ・第4回ボランティア活動推進連絡協議会参加
11	7月6日 ・身体障害者の心理 7月14日 ・雑誌の流れ・配架から製本まで 9月30日、10月15日 ・見学案内研修 10月22日 ・学内施設見学（体育センター屋内プールほか） 11月8日 ・学外施設見学（図書館情報大学、国立公文書館つくば分館、茨城県立医療大学） 3月9日～15日 ・平成12年度新規登録ボランティア事前研修	4月21日 ・ボランティアとの懇談会（第9回） 6月7日 ・附属図書館ボランティア記念式・講演会 「コンピュータの口と耳」 講師：板橋秀一附属図書館長 12月13日 ・ボランティアとの懇談会（第10回）	8月30日 ・図書館情報大学開学20周年記念講演会会場案内（障害者対応） 9月26日～27日 ・図書館学セミナー参加・講演 10月7日 ・対面朗読サービス利用者を囲む会 12月1日 ・留学生を交えたカルタ会 2月9日 ・インドネシア留学生による文化紹介協力 2月24日 ・茨城県自然博物館見学およびボランティアとの交流会

年度	研修会等	講演会・懇談会等	「図・ボラの会」関係
12	7月11日 ・広報紙『STUDENTS』編集の現場から（広報活動） 7月19日 ・図書館資料の配架の基本 9月27日 ・見学案内研修 10月20日 ・学内施設見学（ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー） 11月2日 ・学外施設見学（国立国会図書館国際子ども図書館） 3月8日～14日 ・平成13年度新規登録ボランティア事前研修	5月29日 ・平成12年度特別展ミニレクチャー「日本美術の名品」 講師：小西和信情報システム課長 6月19日 ・附属図書館ボランティア5周年記念式・講演会「子供・本・学校～絵でみるヨーロッパ教育文化史」 講師：教育学系山内芳文教授 ・ボランティアとの懇談会（第11回） 12月11日 ・ボランティアとの懇談会（第12回）	4月13日 ・茨城県自然博物館ボランティアと交流会 6月12日 ・筑波技術短期大学視覚部図書館見学 10月12日 ・茨城県立歴史館見学 茨城県近代美術館見学およびボランティアとの交流会 11月14日 ・宇都宮市立図書館見学 1月25日 ・筑波大学教育学系野村先生講義参加・発表
13	7月12日 ・身体障害者への対応 7月18日 ・見学案内研修 9月26日 ・電子図書館について 10月16日 ・学内施設見学（学系資料室） 11月9日 ・学外施設見学（印刷博物館凸版印刷） 3月7日～13日 ・平成14年度新規登録ボランティア事前研修	6月13日 ・附属図書館ボランティア講演会「これからの生涯学習社会と大学」 講師：山本恒夫本学名誉教授（大学評価・学位授与機構評価研究部教授） ・ボランティアとの懇談会（第13回） 10月12日 ・平成13年度特別展ミニレクチャー「『日本古代の学問と萬葉集』について」 講師：篠塚富士男情報サービス課課長補佐 1月18日 ・ボランティアとの懇談会（第14回）	5月25日 ・おりがみ、和布作品展発表会 7月13日 ・紙の博物館見学 10月4日 ・国立科学博物館見学およびボランティアとの交流会 11月13日 ・三池カルタ記念館見学 11月17日 ・茨城県自然博物館ボランティアとの交流会
14	7月9日、12日 ・見学案内研修 7月15日 ・レファレンスサービスについて 10月23日 ・学内施設見学（図書館情報学図書館） 11月1日 ・学外施設見学（放送大学附属図書館、メディア教育開発センター） 3月6日～12日 ・平成15年度新規登録ボランティア事前研修	6月13日 ・附属図書館ボランティア講演会「現代の若者気質」 講師：臨床医学系堀正士講師 ・ボランティアとの懇談会（第15回） 11月18日 ・平成14年度特別展ミニレクチャー「筑波大学所蔵文書について」 講師：山澤学栃木県芳賀町史編纂室嘱託員 1月17日 ・ボランティアとの懇談会（第16回）	9月28～29日 ・筑波大学菅平高原実験センター見学 11月7日 ・日本科学未来館見学およびボランティアとの交流会 12月9日 ・図書館情報大学溝上先生「情報と職業」講義で発表
15	7月10日 ・障害のある図書館利用者の支援の具体的方法 7月11日 ・視覚メディアの利用及び機器操作説明 10月21日 ・学内施設見学（陽子線医学利用研究センター） 10月27日 ・古典資料係業務紹介 11月5日 ・学外施設見学（国立公文書館） 3月1日 ・中央図書館利用環境整備説明会 3月4日～9日 ・平成16年度新規登録ボランティア事前研修 3月9日 ・体芸図書館利用環境整備説明会	6月9日 ・附属図書館ボランティア講演会「文字と文字情報」 講師：林史典附属図書館長 ・ボランティアとの懇談会（第17回） 9月17日 ・平成15年度特別展ミニレクチャー「筑波大学開学30周年記念特別展」 講師：篠塚富士男情報システム課課長補佐 1月16日 ・ボランティアとの懇談会（第18回） 3月11日 ・茨城県立図書館ボランティア見学会および交流会	6月21日 ・おりがみ会館見学 10月18～20日 ・加賀折り紙ミュージアム見学折り紙教室参加 10月29日 ・江戸東京博物館見学およびボランティアとの交流会 1月29日～2月4日 ・おりがみ、和布作品展（体芸図書館ラウンジ）
16	6月21日、30日 ・見学案内研修 6月27日 ・相互利用係業務紹介 9月29日 ・学内施設見学（体育総合実験棟） 10月14日 ・上製本の作り方 11月11日 ・学外施設見学（アカデミーヒルズ六本木ライブラリー） 12月6日 ・図書の修理について 2月17日 ・文庫本の改装について 3月7日～11日 ・平成17年度新規登録ボランティア事前研修	7月20日 ・附属図書館ボランティア講演会「北欧の図書館」 講師：植松貞夫附属図書館長 ・ボランティアとの懇談会（第19回） 10月13日 ・平成16年度特別展ミニレクチャー「オリエントの歴史と文化」 講師：人文社会科学部研究科秋山学助教授 1月12日 ・ボランティアとの懇談会（第20回）	4月28日 ・「図・ボラの会」会報100号記念発行 6月18日 ・琉球大学附属図書館見学 10月7日 ・大宅壮一文庫見学



# ボランティア活動状況 (平成7年6月～平成17年3月)

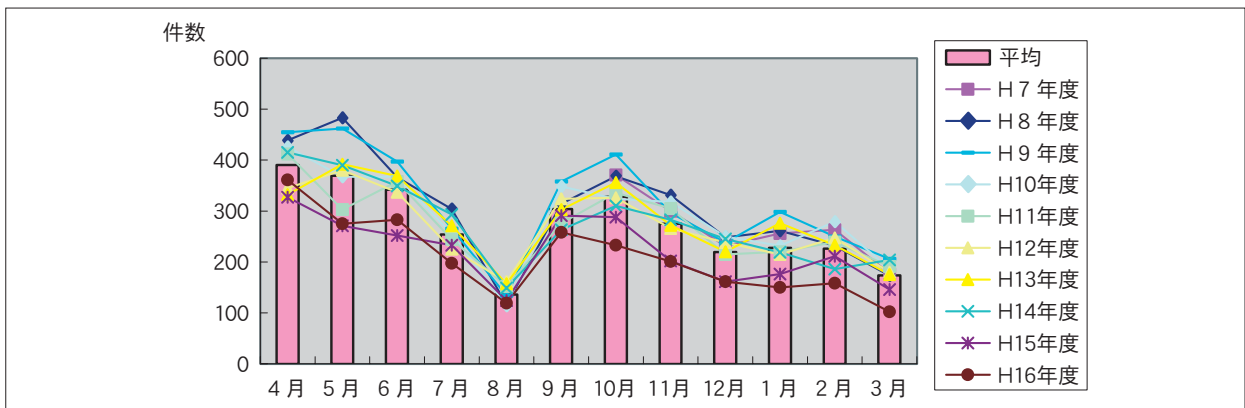
## 活動内容別

### (1) 図書館総合案内

#### ① ボランティアカウンターでの活動

(質問件数)

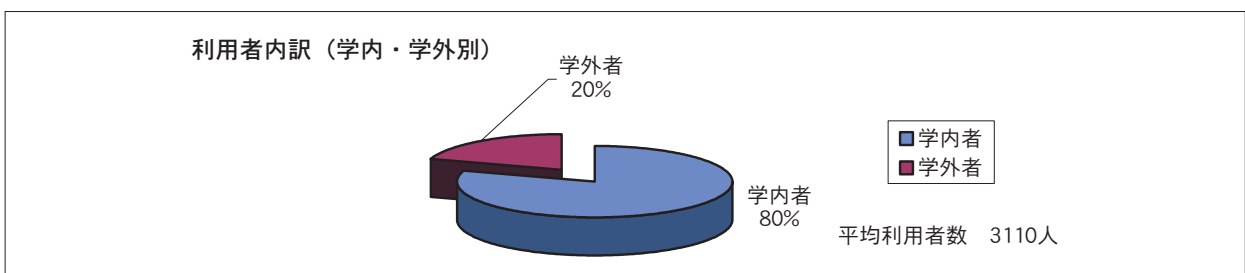
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H7年度							371	300	231	256	263	177	1,598
H8年度	439	483	366	304	116	314	368	331	248	261	232	173	3,635
H9年度	455	462	397	265	134	358	411	296	238	298	250	206	3,770
H10年度	426	367	367	255	114	348	324	318	250	232	279	186	3,466
H11年度	412	303	358	244	152	276	336	305	215	220	239	191	3,251
H12年度	345	380	337	225	161	324	326	266	238	215	247	180	3,244
H13年度	332	392	369	271	157	303	356	272	220	276	233	175	3,356
H14年度	415	390	349	293	149	263	310	283	245	219	186	204	3,306
H15年度	327	271	252	233	124	291	288	202	161	176	211	146	2,682
H16年度	361	275	283	197	119	258	233	201	161	150	158	102	2,498
平均	390	369	342	254	136	304	328	275	220	227	226	174	3,245

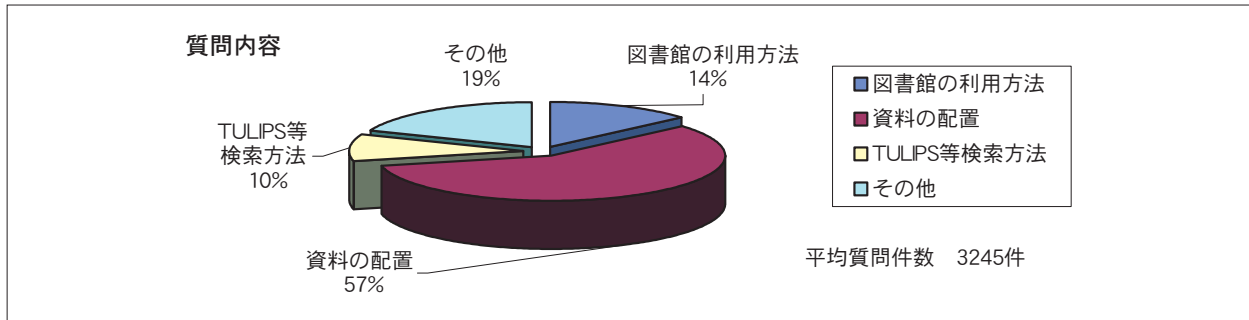
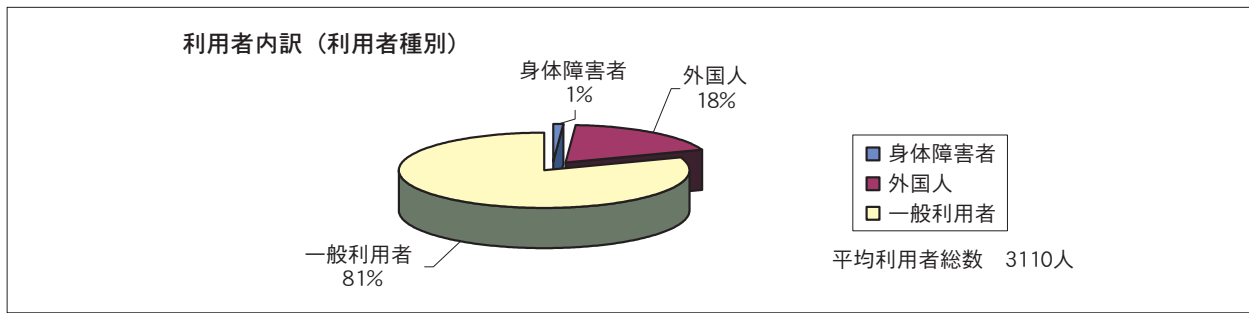


### 利用者内訳 (内訳)

			H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	平均
利用者	学内・学外の利用者区分	学内者	1,081	2,620	2,849	2,615	2,511	2,448	2,606	2,617	2,146	1,974	2,487
		学外者	405	717	588	582	639	719	602	664	566	530	623
	(身体障害者)		15	43	25	40	69	21	30	46	43	28	38
	(外国人)		301	504	637	479	552	580	642	634	547	491	563
内容	図書館の利用方法		196	511	467	310	360	326	359	438	613	565	439
	資料の配置		945	2,062	2,232	2,019	1,983	2,059	2,146	1,953	1,286	1,199	1,882
	TULIPS等検索方法		206	449	392	554	323	220	273	230	217	170	314
	その他		251	613	679	583	585	639	578	685	566	564	610
質問総件数			1,598	3,635	3,770	3,466	3,251	3,244	3,356	3,306	2,682	2,498	3,245
利用者総人数			1,486	3,337	3,437	3,197	3,150	3,167	3,208	3,281	2,712	2,504	3,110

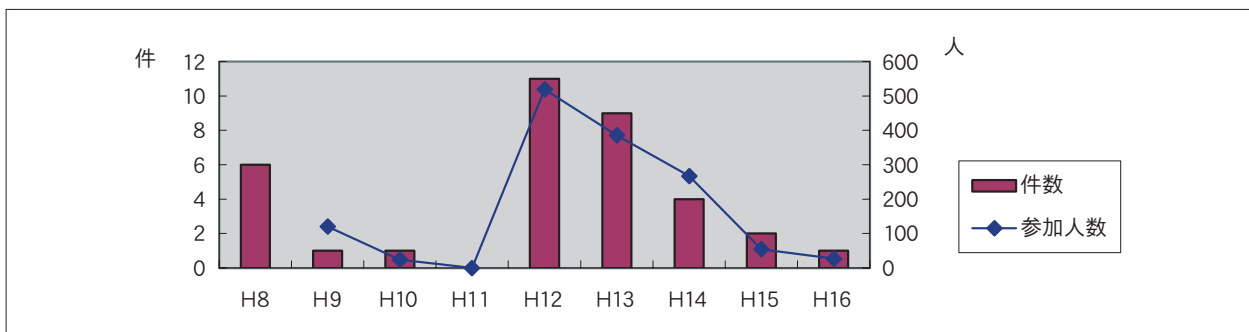
※平成7年度の統計は10月からのため、平均値はH8～H16のみ





②オリエンテーション補助（H8より）

	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	合計
件数	6	1	1	0	11	9	4	2	1	35
参加人数		120	24	0	519	385	267	54	27	1,396



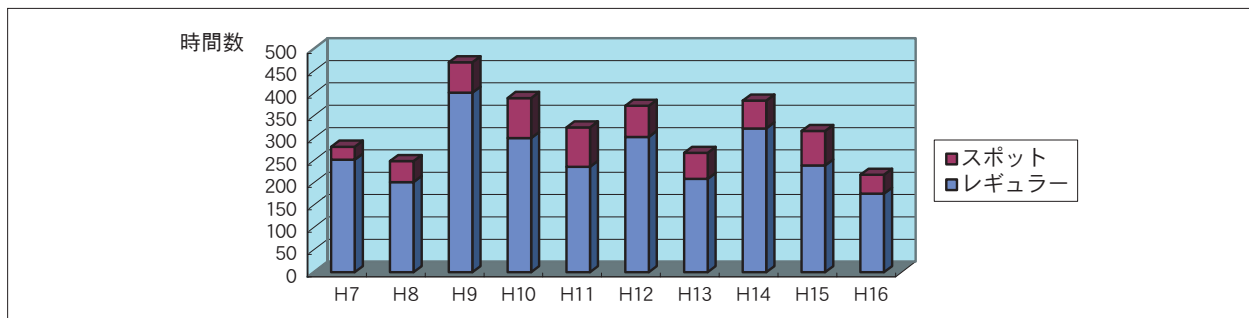
(2) 身体障害者に対する図書館利用支援

①対面朗読

(単位：時間)

	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	合計
レギュラー	252	202	402	300	236	303	209	322	239	176	2,389
スポット	29	47	68	90	88	70	58	62	77	42	602
合計	281	249	470	390	324	373	267	384	316	218	2,991

\* 1学期を通して毎週決まった日を予約するレギュラーと、1回2時間のみを予約するスポットがある。  
\* 休業期間中はスポット予約として対応



②資料探索代行

③車椅子補助、ガイドヘルプ等館内移動補助

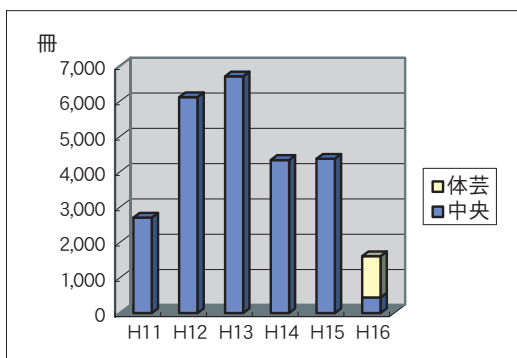
(3) 利用環境整備（中央図書館はH11、体芸図書館はH16より）

①シェルフリーディング

②ラベル補修

(単位：冊)

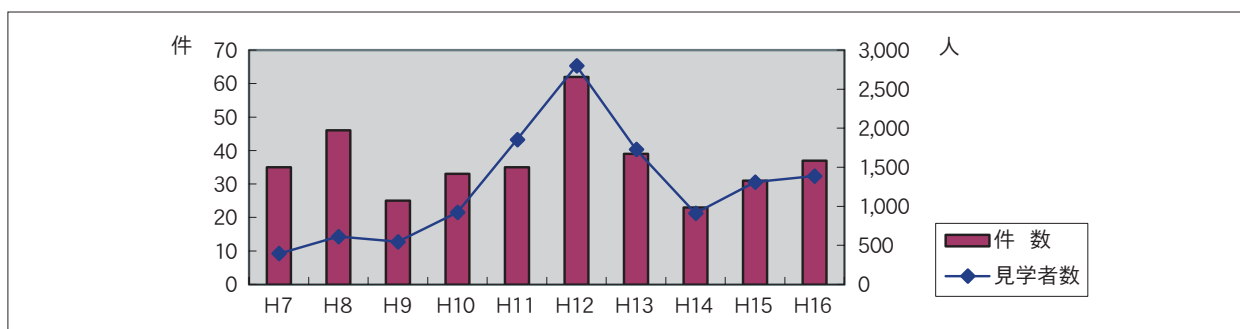
	中央	体芸
H11	2,703	
H12	6,117	
H13	6,708	
H14	4,338	
H15	4,373	
H16	439	1,172
合計	24,678	1,172



(4) 図書館見学案内

	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	合計
件数	35	46	25	33	35	62	39	23	31	37	366
見学者数	391	612	545	920	1,854	2,800	1,728	912	1,310	1,387	12,459

※H11よりフレッシュマン・セミナー、留学生オリエンテーションを含む。



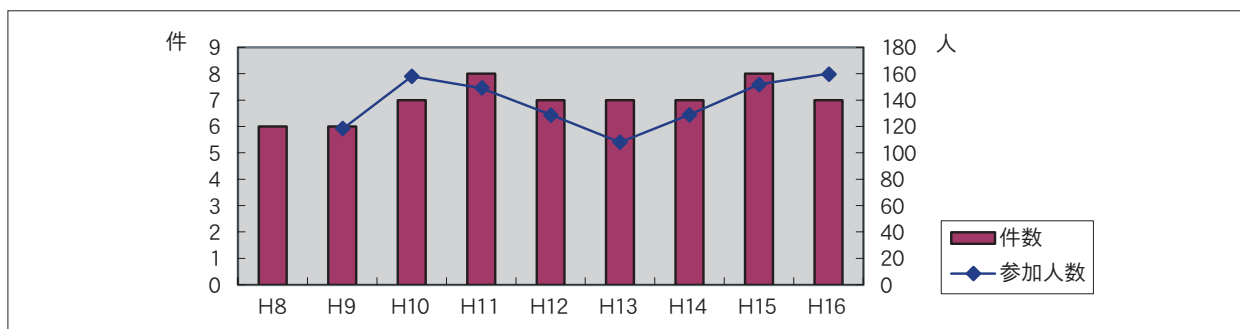
(5) 外国人に対する図書館利用支援

①外国語による図書館利用支援

②新着雑誌のトピックス（国際交流コーナー）

③留学生オリエンテーション補助（H8より）

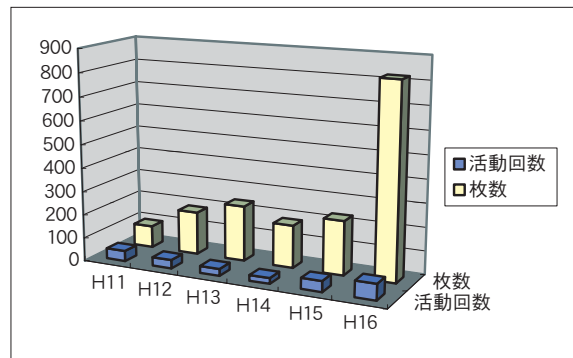
	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	合計
件数	6	6	7	8	7	7	7	8	7	63
参加人数		118	158	149	129	108	129	152	160	1,103



## (6) 特殊資料整理 (H11より)

### ・美術展等ポスター整理

	活動回数	枚数
H11	44	94
H12	36	183
H13	30	237
H14	24	182
H15	45	230
H16	68	821
合計	247	1747



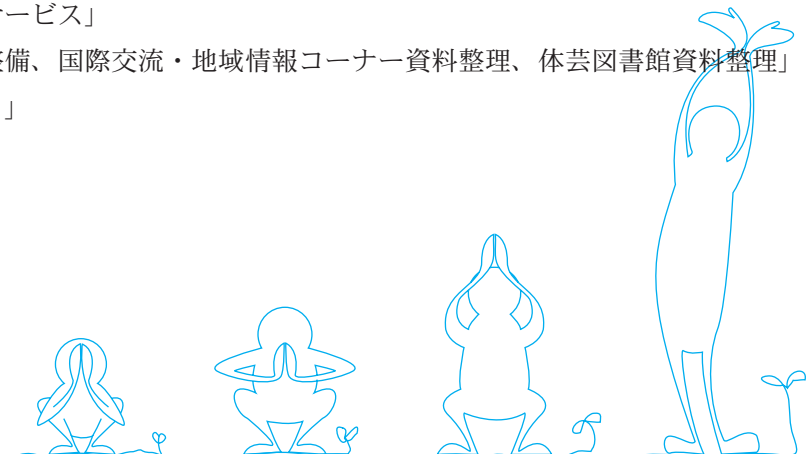
## (7) 公開事業協力

- ・平成8年度特別展「幕末・明治の生活と教育」(展示準備協力および会場受付)
- ・平成9年度特別展「明治のいぶき」(記念講演会受付)
- ・平成9年度附属図書館公開講演会(会場受付)
- ・平成12年度特別展「日本美術の名品」(展示室警備)
- ・平成13年度特別展「日本古代の学問と萬葉集」(展示室警備)
- ・平成14年度特別展「学問の神をささえた人びと」(展示室警備および会場装飾品展示)
- ・平成15年度特別展「開学30周年記念附属図書館貴重図書特別展」(展示室警備)
- ・平成16年度特別展「オリエントの歴史と文化」(展示室警備)

## (8) ボランティア活動の広報

- ・ボランティア広報紙「うたがき」発行

H8.9	創刊号
H9.1	第2号
H9.4	第3号
H9.6	第4号
H9.10	第5号
H10.4	第6号
H10.12	第7号
H11.11	第8号
H12.12	第9号 「ボランティア活動5周年記念号」
H14.1	第10号 「外国語でサービスするボランティア」
H15.1	第11号 「対面朗読サービス」
H16.2	第12号 「利用環境整備、国際交流・地域情報コーナー資料整理、体芸図書館資料整理」
H17.2	第13号 「自主研修Ⅰ」



## ■ボランティア活動記録

### (1) 図書館総合案内

筑波大学の中央図書館は20,000m<sup>2</sup>に近い館内に約180万冊の蔵書が並んでいます。ほとんどが手にとって見られる全面開架方式になっており、利用者は自由に利用できますが、不慣れなうちは必要な資料を探すのに大変な労力を必要とします。

電子図書館用パソコンの置かれたボランティアカウンターには常時2～3名のボランティアが、平日午前10時～12時・午後1時～4時の間座っています。ボランティアは、①館内の窓口又はカウンターを案内する館内窓口案内、②資料の配置場所を館内資料配置図によって説明し、希望により配置場所へ同行する資料配置・探索案内、③図書館内のコンピュータ端末を利用した蔵書検索の方法等を案内する端末操作案内、④各種利用申込書の記入方法を説明する各種利用申込書の記入指導などを中心に図書館総合案内を行っています。学内者はもとより、学外者および留学生の利用者も数多く、親切な対応が功を奏しています。

近年特に、図書館でも様々な情報の電子化が進んでおり、それらに対応すべく図書館総合案内を担当するボランティアも各種研修、勉強会等で日々研鑽を積んでいます。



ボランティアカウンター風景

#### 総合案内活動とそのささやかな楽しみ

図書館入口のゲートを過ぎると、左手にメインカウンター、右手少し奥にレファレンスデスク、そして真正面に見えるのがボランティアカウンターです。図書館に慣れた方には既に景色の一部となってしまうようなこの配置ですが、初めて図書館を訪れた人、慣れていない人には正面に見えるボランティアの雰囲気はどこか親しみやすさを感じるのではないでしょうか。図書館職員には聞くのが少しためらわれるときなど、ニコニコして「何かお探

しですか？」と声をかけてくれる人がいるのはとても気持ちを軽くするのではないかと思います。

附属図書館の特徴のひとつである全面開架方式は、利用者にとって目的の資料を書架から直接手に取って見ることができ、かつその書架の同じテーマの本をついでにチェックできるというすばらしい利点を持っていますが、それは同時に自分でその場所まで到達できなければならないという一種の課題を含んでいるのです。現時点では蔵書検索システム（OPAC）による検索結果からクリックひとつでだいたいの書架の場所まで表示されるようになったので、要領さえ覚えればこんなに使いよい図書館はないと思うのですが、誰にでも最初からわかっていることなどなく、やはり初めての時には「先達はあらまほしきもの」なのです。そんなときに何の気兼ねもなく気軽に訊ねることのできる場所としてボランティアカウンターは存在したいと思っています。

平成10年に電子図書館がスタートし、システムが向上していくのと同時に、学校や家庭においてもインターネットなど電子メディアの普及が進んで、検索システムに対する気後れなどのない学生がほとんどになり、カウンターに寄せられる質問も変化し

できました。コンピュータ端末から答が得られるような質問はやはり減少し、人間にしか答えられない(?)質問、端末で調べるほどでない質問にしばられてきています。その中でも探している資料が見つからない時、気軽に一緒にその場まで行って探すという同行案内のようなサービスこそボランティアの面目躍如たる活動であると思いますし、これからもより電子化されてゆく図書館の中において有意義なサービスであると思います。実際に、検索ではちゃんとあることになっている資料がその場に見あたらないことはしばしばあります。自分ひとりだと探し方が問題なのではと心細くなりますが、ふたりで探してみると思いのほか容易に見つかることがあります。それでも見つからないとなれば、一緒にレファレンスデスクまで同行します。



ボランティアカウンターに立ち寄る高校生

探している資料が見つかったとき、あるいは問題が解決したときの喜びに利用者とボランティアの区別はありません。ただそれはボランティアにとって、ひとつは人の役に立ったという喜びであり、同時に何らかの知的好奇心を充足する喜びでもあるのです。普段自分が考えもしなかったような分野の

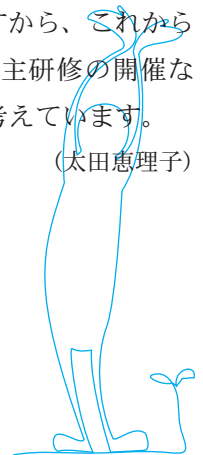
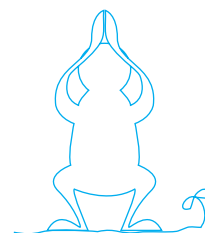
資料を探す、問題の解決のためにあちこちの窓口案内し、まったく未知の事柄に解決の糸口を見つける手伝いをするという作業自体が自分にとって一種の謎解きであり、それに答が得られたときの喜びはなかなか普通の生活からは得られません。利用者を案内する時には、利用者の方々と話しながらその場所まで行きますので、その会話の内容から探している資料のより詳しい情報を得ることで時には利用者の参考になるような情報を提供できることもあります。



ボランティアカウンターでの利用者対応

パソコンからは得られない人間ならではのサービスこそが、ますます電子化してゆく図書館でのボランティアの総合案内活動のこれからの方向ではないかと思えますし、またそのためには、図書館に関する基礎知識を十分に身につけることが肝要だと思います。だいたい図書館や本が好きでボランティアに参加している面々なので、これからも図書館主催の研修への参加や自主研修の開催などを行い研鑽を積んでいきたいと考えています。

(太田恵理子)





## 総合案内の勉強

一応の事前研修を受けて、いざボランティアカウンターで活動を開始してみると自分が附属図書館のことを何も知らないという現実の壁にたちまちぶつかりました。館内の窓口案内はなんとかこなせたとしても、資料の配置場所の案内となると全く勝手が違いました。180万冊もあるという蔵書がどのような分類でどの階に、どのような方法で配架されているのか、2階ロビーの雑誌はどのような分類で配置されているのか、利用者に聞かれてもとっさに対応できず戸惑うばかりでした。その大要は附属図書館概要にちゃんと書かれているのですが、付け焼き刃の知識は何の役にも立ちませんでした。附属図書館概要を自分の知識として十分に消化し、自信を持って対応できるまでにはやはりかなりの失敗や経験が必要でした。図書館のコンピュータ端末を利用して蔵書検索・操作案内となると、これも大変手強い問題でした。

このような戸惑いや失敗はおそらく総合案内担当ボランティアの皆さんが経験したものと思います。そこで、ボランティア達は活動の中で味わった苦い経験、難しい質問、自分で疑問に思ったことなどをいわゆるQ&Aとしてノート（「お助けノート」）に書き留め、お互いに情報を共有するようにしました。これらのQ&Aは次第に数を増し200件を超える数になりました。図書館内の設備にかかわる事柄、図書や雑誌の配置にかかわる事柄、学内の諸施設や研究施設の略称、請求記号が“Z”で始まる本とは？、官報・白書・学位論文はどこに？など様々な問題についてのメモが含まれていました。それぞれ断片的な情報の集まりではありましたがこの「お助けノート」はボランティア達が日頃突き当たった問題への実戦的ソリューション、いわば「虎の巻」でした。代々の新人ボランティアも必ずこの「お助けノート」のお世話になりました。図書館概要は系統的なガイドブックですが「お助けノート」はいわば逆引き辞書のような役割を果たしてくれました。

前述のように図書館のコンピュータ端末を利用して蔵書検索・操作案内をすることは、キーボード操作を苦手とするボランティアにとっては大変な作業でした。当時の図書館はすでにコマンド方式に

よる蔵書検索システムが動いていました。マウスで画面をクリックする今の方式と違って、すべてコマンドをキー操作で打ち込まなければなりませんでした。幸いにもこの分野に詳しいボランティアがおり、その助けを得てコンピュータ端末操作の自主的研修を始めました。平成10年1月の電子図書館発足以前はコンピュータ端末も数少なく、このため図書館の閑散期を縫っての研修でした。

このような努力の積み重ねにより、図書館施設、図書の配置、図書館を取りまく大学の様子など次第にわかるようになり、コンピュータ端末による蔵書検索もできるようになり、案内活動もなんとかこなせるまでに成長することができました。



電子図書館パソコン

平成10年1月、当図書館は「電子図書館」として新たな脱皮をとげました。コンピュータ端末は図書館各階に数多く配置され、ボランティアカウンターにも1台設置されるようになりました。これはボランティアにとって大変な喜びで、その後の活動に大きな力となりました。インターネットの附属図書館ホームページを介した蔵書検索はWWW版OPACに変わり、あの煩わしいコマンド方式から解放されました。ダイアログボックスに検索したい図書・雑誌名などの必要事項を打ち込み（このキー操作必要）、あとはコンピュータ画面の中の必要な箇所をマウスでクリックすることにより、容易に検索を進めることができるのです。この新しい方式はボランティ

アにとってはフレンドリーなもので、結果としてボランティアに大きな自信を呼び起こし、活動の幅を広げてくれました。

平成13年初め頃に、附属図書館ホームページに「サイト内ページ」の検索窓が追加されました。これにより図書館内部のいろいろな資料（規定、利用案内、つくばね記事、CD-ROMリストなど）をキーワードで検索できるようになりました。かつて館内に関する情報不足に苦しみ「お助けノート」に頼っていた問題はこの「サイト内ページ」を利用することで殆ど解決されました。

総合案内を担当するボランティアはこの頃、新たに準備された「ボランティアマニュアル（総合案内カウンター活動編）」研修のため、平成13年5月、「カウンター活動研究会」を立ち上げました。この研究会は変動激しい図書館環境に対しボランティア総合案内担当者も対応を図るという目的もありました。新マニュアルの通読から始まり、WWW版OPACシステムによる検索方法の習熟、検索結果の解説、図書館内の諸施設の再確認、図書と雑誌の分類方法、その書誌事項の確認など研修の範囲を広げました。さらに参考のため、インターネットを通じての学外蔵書検索（国会図書館、NACSISなど）、各種電子ジャーナル、サーチエンジンの体験など図書館を取りまく最新事情への理解も深めました。この「カウンター活動研究会」は現在も続いています。

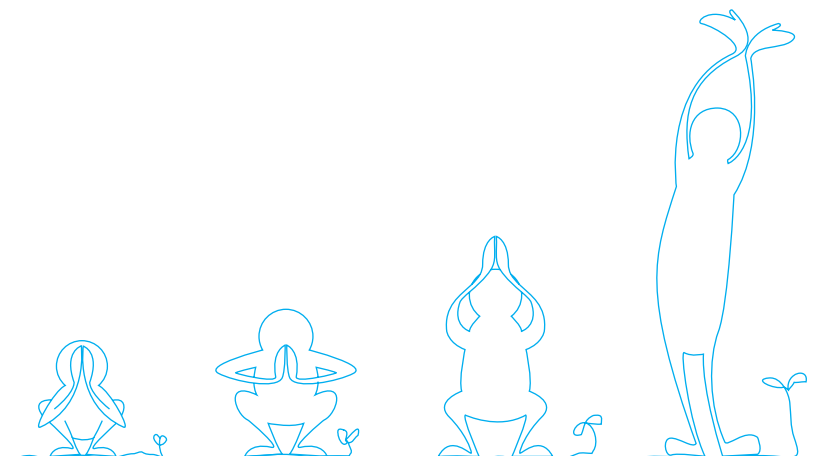
その後、平成14年4月に「ボランティアマニュアル」は「サイト内ページ」にWeb版として組み込まれました。これにより随時アクセスが可能となり、また「キーワード」による必要事項の検索も可能と

なり、大変使いやすいものとなりました。

活動を開始して早くも10年が経過しました。初めはずぶの素人の単なる集合に過ぎなかったボランティアも、今は附属図書館という環境の中で総合案内役として、利用者の皆さんや図書館職員の皆さんから認知していただけるようになりました。気軽に利用者の方と一緒に館内の本や雑誌を探し廻っています。目的の本が見つかった時の利用者の喜ぶ姿が何よりの励みになります。館内を取りまく環境にもすっかり慣れ、職員の皆さんとのスムーズなコミュニケーションが図られるようになりました。このことが我々の活動をしっかりと支えてくれる基となっています。ボランティア自らの努力もさることながら、その活動を辛抱強く見守り、励まして下さった職員の皆さん、特に代々のボランティア担当職員の皆さんに感謝します。（高田定司）



ボランティアカウンターでの利用者対応



## (2) 身体障害者に対する図書館利用支援

筑波大学には、身体に障害のある学生・教職員が数多く在籍しており、他の大学図書館に比べて身体障害者の利用が多くなっています。ボランティアは、①視覚障害のある利用者に対する対面朗読、②音声朗読システムの利用支援、③身体に障害のある利用者が館内で資料を利用する際に、資料を書架から探す資料探索代行、④利用者が館内を移動する際の援助として車いす介助やガイドヘルプ等の館内移動援助などを中心に行っています。身体障害者に対するこのような利用支援は、ボランティア活動の重要な柱となっています。

特に、対面朗読サービスは視覚障害のために活字での読書が困難な利用者に対し、専門のボランティアが朗読サービスを行うものです。対面朗読の予約には、1学期を通して毎週決まった曜日を予約するレギュラー予約と、1回のみ予約するスポット予約の2種類があり、対面朗読室で2時間、集中して朗読サービスが受けられるため、利用者からも好評です。大学図書館の対面朗読は、資料の通読だけではなく図書館利用の支援なども求められるので、利用者の要求にできる限り応えられるよう対面朗読の勉強会も行われています。

### 対面朗読に参加して

対面朗読サービスはある程度の技術を必要とするものですが、特別な養成は行われずにボランティア導入時に立ち上げられたため、対面朗読に限っては、つくば市の朗読ボランティアグループに所属している人が別枠で採用されました。しかし、平成8年度からは一般のボランティアの枠内で採用されるようになったことにより、当初分離していたこの活動も、ボランティア全員で取り組む体制ができました。

館内の移動補助、検索代行など、対面朗読以外の支援活動にも眼を向け、自主勉強会を行うようになりました。希望者全員が対面朗読に当たれるように、また、ボランティアカウンターでも、目次を読み上げる程度のことはできるように、よりよいサービスを目指して勉強会を続けています。基本的な研修事項は、基礎的なガイドヘルプの訓練、目次・図・写真・グラフ・表などの読み方、同音異義語などの分かりにくい漢字の説明の仕方、“注”の入れ方、読めない言葉や読めない外国語の処理、などです。

また、対面朗読には幅広い知識が必要との考えから、ボランティアの多彩な経験、知識を活用して、ユニークな勉強会も行いました。スペイン語、韓国語、ロシア語の基礎と、それぞれの国の文化を学び、英詩や芥川龍之介の『河童』、『百人一首』なども取

り上げました。外国語のスペシャリストに加えて競技かるたの経験者もおられたのは幸運でした。最近はおく実用的に、修士論文抄録集などをテキストにしています。

大学図書館における対面朗読は、一般の図書館とは異なり、利用できる論文を探すことが最も重要な仕事で、そのためには、効率的にサービスできるように図書館の利用の仕方をよく知っておくことも大切です。英語の論文もよく利用されます。ボランティアの中には英語に堪能な方も多く、英文の対面朗読も実施されています。

対面朗読活動を通して利用者のニーズを把握し、図書館側に伝えることも大切な役割のひとつです。対面朗読室にパソコンが入り、資料の検索が可能になりました。弱視の学生さんのために拡大読書器も入れていただきました。冷房が入る前にせめて扇風機をとの希望も直ちにかなえられました。読みの調査のための参考書類も希望どおりに備え付けられています。ボランティアカウンターとの連絡用にPHSも用意されました。来館時に妨げとなる点字ブロック上の駐輪対策についても速やかに対応していただきました。

対面朗読を利用される方は毎年3人か4人です。平日の10時から16時という限られた時間では学部

の学生さんは利用しにくいと、利用者が少ないこ

とは残念です。また、科目等履修生の場合、他の支援システムがないために生ずる依頼にどこまで応じることができるのか、皆で悩んだこともありました。しかし、発足時から今に至るまで利用させていただいている教官の方、大学院生の方もいらっしゃいます。また、さらに上のステップに進まれたり、就職して活躍なさったりと、うれしい思いもたくさん経験させていただきました。今後も、知恵を出し合い、研鑽を積んで、利用者にとってもボランティアにとっても、より豊かな活動を展開していくことができるようにと願っています。(柳沢由紀子)



対面朗読サービス中

### 対面朗読サービスに感謝

私は、筑波大学の大学院で心身障害学を学んでいる全盲の学生です。目が見えないゆえの不便さはもちろんいろいろありますが、それでも、今の私のキャンパス・ライフは、大学から提供される数々の支援システムと、周囲のたくさんの人たちの協力に支えられて、大変充実しています。そして、サービス開始当初から利用している「大学図書館での対面朗読サービス」も、私の学習や研究を進める上で大切なサポート源のひとつとなっています。

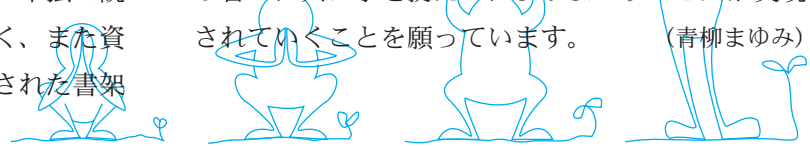
視覚障害者にとっての最も大きなハンディは、文字情報へのアクセスと移動です。つまり、単独で読めるような点訳、音訳資料がほとんどなく、また資料を探すにも、広い館内に所狭しと配列された書架

をひとりで訪ね歩くことは難しいために、視覚障害学生にとって図書館はバリアの多い場所と言えます。したがって、私たちが図書館を利用するためには、多かれ少なかれ目の見える人のサポートが不可欠です。そのようなニーズにこたえてくださっているのが、図書館ボランティア、なかでも対面朗読を担当されている方々です。

情報技術の進歩によって、今は視覚障害者でもパソコンを使える時代です。インターネットで図書館のウェブサイトアクセスして蔵書を検索し、関心のある資料のリストを作るところまではひとりでもできます。けれども、その先が問題です。実際に書架の所へ行って目的の本を手に取り、目次と前書きあたりをちらっと見る。自分がイメージしていたのと違えばそのまま書架に戻すし、もっとじっくり読みたいと思えば、借りる手続きをするか、部分的にコピーをとる。館内で目の見える学生がひとりでも当たり前に行っているこの一連の作業を、私は対面朗読者との共同作業で行っています。

読みたい本が決まれば、それを対面朗読室へ持って行き、声に出して読んでもらいます。「そこはもう一度お願いします」「そこは必要ないからとばしてください」「そこはもっとゆっくり丁寧に読んでください」などなど、読み方についてはその都度朗読者にリクエストします。このように、単に資料を最初から最後まで順番に音訳してもらうのではなく、その場その場で読み方のルールを相談しながら読み進めてもらえる点は、録音図書との提供とは大きく異なる、対面朗読ならではの魅力のひとつです。

文献研究という手法で研究を進めている私は、日頃から頻繁に図書館を利用して膨大な資料と格闘しています。そして、先に書いたような様々な作業を、いつも朗読者に効率よく、そして何よりも快くお手伝いしていただいていることに深く感謝しています。対面朗読サービスが始まってから10年の間に、いろいろな意味で利用環境は改善されてきました。これからも、利用者と支援者の両方が十分に話し合い、共に手を携えて、よりよいサービスが実現されていくことを願っています。(青柳まゆみ)



### (3) 利用環境整備

ボランティア活動が軌道に乗り始めた平成11年度から、新しい活動として始まりました。主にセルフフリーディング（書架整理）と図書ラベル等の補修作業を行っています。

5階建ての本館・新館からなる中央図書館には約180万冊の図書が全面開架方式で並んでいます。利用者にとっては自由に書架から取り出せる便利な方式ですが、一度迷子になってしまった図書は、広い館内ではなかなか探し出すことができない状態になってしまいます。職員によるセルフフリーディングも週に1回実施していますが、蔵書が多く決して十分とはいえません。館内の利用環境を整備するために、ボランティアは地道な書架整理の活動に取り組んでいます。

この活動は対人サービスとは違った手ごたえがあり、少しずつ成果が見える活動として注目されています。平成16年度からは中央図書館に加え、体育・芸術図書館での利用環境整備も始まりました。

#### 活動に参加して

利用環境整備の活動内容は、ラベル順に本を整頓して行くこと（セルフフリーディング）、ラベルが剥がれかかっているのを糊付けすること、本や本棚の埃を掃うこと、補修を必要とする本があれば、メインカウンターに届けることなどが主なものです。

ところで、この活動は個性の生まれやすい活動といってもよいかもしれません。この活動を希望すると初日に職員、あるいは先輩ボランティアがやり方を説明してくれます。しかし、説明の後で、伝えた方法はひとつの例なので、ご自分にあった方法で利用環境を整えて下されば結構ですとの話が加わります。実際、体格、視力、体力などが様々なボランティアが同じ作業をするのは合理的ではありません。

同じ活動のボランティアに聞くと、教わった例のとおり忠実に処理していく人、セルフフリーディングに力を入れる人、掃除に熱心な人、ラベル補修に専念する人等に分かれています。因みに私はセルフフリーディング中心派。というのは、教わったとおり派として活動中に、思いっきり埃を吸って風邪をひいた事が何回か重なったことがあり、それ以来、特に風邪がはやる頃は、埃、塵の類には半分目をつむることにし、セルフフリーディング派に転向しています。

作業中に疑問が湧けば、その都度、担当職員に口頭で尋ねたり、あるいは活動日誌に質問を書きおくと、次の活動時までに必ず返答してくれます。ま

た質問者だけでなくこの活動参加者に周知しておいた方がよい場合は全員に伝えられます。この対応は当然と言えば当然なのでしょうが、きめの細かい対応には頭が下がります。



利用環境整備活動中

この活動をしながらいろいろ感じたり考えさせられたりすることがあります。図書館で読みたい本、調べたい本を手にするには、ほとんどの場合、まず蔵書検索システムで本を検索し、ラベルの請求記号をメモし、書架へ行って請求記号を頼りに本を探さなければなりません。もし、本が請求記号順に正しく配列されていないと、見つけることが困難なのです。ですから本の並んでいる順番の重要さはしみじみわかっているはずです。それなのに読み終え

たとたん、それをうっかり忘れてしまう人が意外なほどいることに気がきます。多くは、だいたいこの辺から抜いたという感覚で本を戻すようです。そのため戻すべき場所からズレてしまう—それが本数冊分のズレだったり、段違いのズレだったり、書棚の列のズレだったりします。ラベルをちょっと確認すればわかることなのに……。時には、階のズレ—本来3階にあるべき本が4階にあったということがあり、どうしてこうなったのか解釈のしようがなくて、ただただびっくりするばかりという時もあります。図書館で調査中だった本の発見に、貢献できたのではないかしらと思うのはちょっと楽しいことです。



図書ラベル補修中

楽しいことといえば、こんなところにこんな本があった！と、作業の手をちょっと休めページをパラパラ開いて見ることができることもあげられます。しかしこれらはおまけの部分で、静かな場所で、本にぐるっと囲まれ、一冊一冊本を手にとって埃を掃っていると心が落ち着き、お役に立ちながら、しかも日常ではなかなか得難い時間を過ごせることに本来の楽しさがある気がします。

昨年度までは中央図書館の3階、4階、5階が活動場所でした。今年度から拡大され、体育・芸術図書館でもこの活動が始まりました。中央図書館での

われわれの活動が認められたのだとうれしく、皆ますます張り切っているところです。

利用環境整備活動は、ボランティア導入後5年目、平成11年度に新設された活動です。今から思うと、当時は、職員・ボランティアともに仕事の線引きにかなり神経質になっていた時期でした。前年度末に開催された職員・ボランティアの会合の席で図書館側から利用環境整備活動の提案がありました。それを聞いた時、まずその活動は図書館職員の、あるいは有給アルバイトの仕事であると感じ、それと同時に、ボランティア受入れにまだまだ違和感を残していた図書館側がよくこの決断をされたとも思いました。実際、職員の間で相当な議論があったとうわさを耳にしました。労働、しかも重労働に類するものを頼んでもよいのかという遠慮、あるいは本をラベルに書かれている請求記号の順に並べるという一見単純作業ではあるけれども、開架式図書館にとって非常に重要な仕事をボランティアに任せてよいのかという疑問などがあったようです。

一方、ボランティア側も対面朗読、外国人の利用支援、広報など特別の興味や技能を持っている人は別として、大多数の人は総合案内だけの活動だったので、活動範囲の拡大を願う人がいました。職員の領域と考えられていた分野にボランティア活動が入り込んでいくことに対する戸惑いと抵抗—ボランティア活動の変容への不安を感じつつ、しかしとにかく受入れてやってみようということになりました。総合案内になじめなかった人、新しいことに挑戦してみたい人、利用者と共に書棚に行き、配架の乱れのために求める本を探し出せず、利用者と一緒にがっかりした経験のある人、新採用で早く図書館に馴染もうという人、と理由は様々でしたが10名が呼びかけに応じ、その年の4月から活動がスタートしました。

活動が軌道に乗った今では、利用環境整備がボランティアの有意義な活動のひとつであることに異論を挟む人はいません。一大決心をして提案した図書館側も、提案を受入れたボランティア側も先見の明があったと言えます。

(内多素子)



#### (4) 図書館見学案内

筑波大学は、開かれた大学として地域社会および国内外の研究・教育機関と連携し大学の公開を積極的に行っています。多数の見学者の受入れも行っており、中央図書館にも年間2000名程度の見学者が訪れています。

ボランティアは、あらかじめ用意されたマニュアルに従い、主に学外から図書館の見学に訪れる高校生、高校のPTAなどに対応しています。また、学内のフレッシュマンセミナーや各種オリエンテーションの際の館内案内にも協力しています。広い館内をまわり、筑波大学附属図書館の特色をわかりやすく説明できるように、図書館では見学案内を担当するボランティアに対し見学案内の研修を行っています。図書館見学案内マニュアルには、ボランティアが英訳した英語版もあります。毎年増加傾向にある見学者の約半数は、ボランティアが対応しています。



高校生の見学案内

#### 筑波の本の森を体験する・・・見学案内

図書館の見学案内はボランティア活動開始当初から活動メニューにあり、そのことからボランティアに期待される活動としては極めて適当とみなされるものであることがわかります。図書館のあらましをつかむために、案内ビデオを見ることだけでなく、実際に図書館内を歩いて書架の並び方・図書の配架の様子などを確認しながら説明を受け、図書館内の雰囲気や閲覧・学習している学生を目にすることによって単なる情報以上の「体験」をすることは図書館を知ることにもっとも役立つように思います。また、案内の過程は研修やマニュアルによってある程度標準化できるため、多数の人が参加することもボランティア活動のひとつとして適当なのではないかと考えられます。

見学案内には大別してふたつの場合があります。ひとつはこれから図書館を利用しようとしている学生の場合、もうひとつは大学図書館とは如何なるものかを見ることに重点がある学外者の場合です。ふたつの案内方法には自ずと区別があります。

まず、これからの利用を前提とした学生の場合には、各階を案内しながら求める資料にいかにか効率的に到達できるかをサポートするよう心がけます。図書には一般の図書と参考図書の区別があり配架場所が違うこと、雑誌の配架位置、旧東京教育大の図書の配置などカウンターに座っていると質問されることの多い点については特に注意して説明します。カウンターでの総合案内活動の経験により、よりよい案内方法に作り上げていくことができるのも見学案内の楽しみのひとつとなります。



高校生の見学案内

学生にはもちろん多くの外国人留学生も含まれますが図書館ホームページの検索画面には英語の画面もあり、図書館の利用に慣れた留学生にはビデオと見学案内を組み合わせたオリエンテーションで十分に図書館を利用できるようになると考えられます。現在、英語での案内を担当するボランティアは限定されていますが、見学案内には英語版のマニュアルもあるので英語での案内をより多くのボランティアの方々にしていただけるようになる事がこれからの課題のひとつと考えています。

見学案内のもうひとつの場合、すなわち学外からの見学者の多くは現在高校生で占められています。国立大学の独立法人化に伴って、より開かれた大学として見学を受け入れる機会が増えました。一方、高校の方も最近では単なる修学旅行をやめ、テーマを持って、あるいは進学意識の高揚を意図して大学見学を行う場合が増えました。このため、ここ数年、高校生の見学が以前とは比較にならないくらい増えています。また、それに伴い、PTAの研修の一環としての見学も増えているようです。



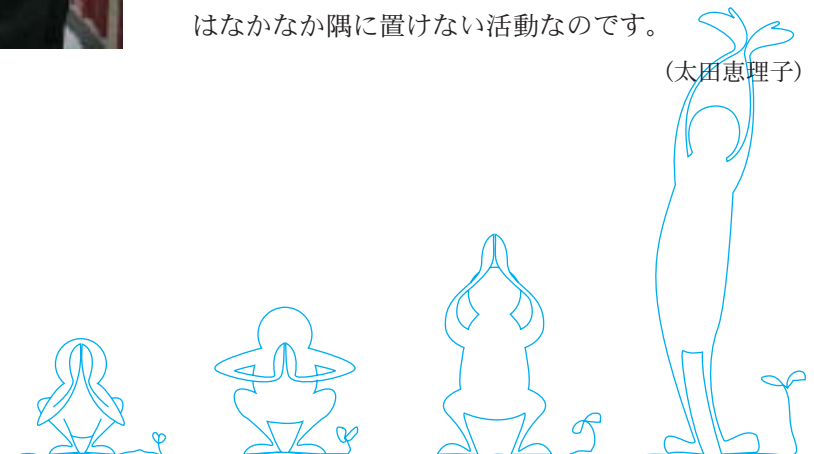
説明を聞く高校生たち

このような見学者には細かい蔵書検索の技術の説明などは必要でなく、この図書館の特徴である資料の集中管理、全面開架、電子図書館などのすばらしさを説明します。そして実際に図書館内を歩きながら、貴重書展示室や旧東京教育大の蔵書のある1階で明治以来の歴史を持つ筑波大の蔵書の奥行きを感じたり、コンピュータの並ぶ2階で最新の情報に接することもできること、図書・雑誌以外にも視聴覚資料・マイクロ資料など大学での研究に供せられる様々な資料が蔵せられていることを説明し、3階から5階で実際に立ち並ぶ書架の中で圧倒的な蔵書を肌で感じることで大学図書館というものを十分に知ってもらえるようにします。

見学案内という活動はボランティアが参加しやすい活動であり、実際様々な博物館、美術館、図書館などの施設においても、ボランティアによる案内を掲げているところが多くあります。そして、時には、「ボランティアによって得意な分野があり、日によって違う案内になります。いろいろな案内をお楽しみください」などというちょっと気になる表示のあることもあります。先にも書いたように、日々の活動からの情報をもとにいろいろな豆知識やトリビアやらを案内活動に生かしていくことにより、基本を押さえた案内にプラスアルファを付け加えていく楽しみがあるのです。

そしてもうひとつ、案内に歩くことによって図書館の中に今まで見過ごしていた何かを発見することが見学案内の究極の醍醐味と言えるのではないのでしょうか。来館者の案内というある意味奉仕の活動をすると同時に、何かを発見し、自分に資するという生涯学習の一助にもなるという点で見学案内はなかなか隅に置けない活動なのです。

(太田恵理子)





## (5) 外国人に対する図書館利用支援

筑波大学では、世界各国から多くの留学生や研究者を受入れています。図書館を利用する多くの外国人にとって、言葉が通じないことは図書館利用の障壁となる場合がありますが、英語のみならず諸外国語に通じたボランティアが、ボランティアカウンターにおいて、外国人の図書館利用支援を行っています。

毎年、春と秋に行われる留学生オリエンテーションでは、英語を使っての館内見学案内および端末操作実習の補助を行っています。オリエンテーションを受けた留学生が、その後カウンターを利用することも多く、ボランティアカウンターに訪れる利用者の約2割は外国人利用者となっています。また、外国人のために日本文化を紹介する活動も行われており、留学生を対象としたおりがみ講習会は、毎回好評です。

日本語が不自由な外国人利用者の図書館利用を、外国語を使って支援する活動はボランティア活動の中でも特に意義あるものとなっています。



留学生の案内を英語で

### 英語での案内活動に参加して

ボランティア発足当初、大学側から提示されたボランティア活動の中のひとつとして留学生への支援がありました。この活動を希望した人の中には海外生活経験があり、現地のボランティアに支えられ充実した海外生活を送れたので、お返しとして外国人への支援をしたいという方も数名いました。

ボランティアが発足した翌年平成8年からは英語での見学案内（年に2回位と少なかったのですが）にボランティアも参加し始めました。この時期に外国人への見学案内にかかわった方達は英文マニュアルが整備されていなかったため、苦勞もあつたようです。

その後、英語の堪能なボランティアによって現在の英文マニュアルが完成しました。マニュアルは案内すべき内容の基準としても大変役に立っています。なお、外国人といっても英語を母国語とする方達ばかりではありませんので、英語を母国語としない方々への説明はマニュアルどおりではなく、できるだけわかりやすい単語に置き換えるなどの工夫も必要です。

さらに、留学生などすぐに学生生活が始まる方達は具体的な質問をしてくるので、適切な対応が取れるように図書館の利用方法を勉強しておく必要があります。現在、ボランティアの有志を中心とした英会話の勉強も始まりました。これからの案内活動を支える方々が育ちつつあります。

英語のほかにはロシア語、フランス語、韓国語、中国語などが話せるボランティアもいます。このような方がカウンターで対応しているのは外国の方にとっても心強いことと思います。特に、新学期初めにはまだ日本語が不自由な留学生が多いので、英語での対応は感謝されます。

生涯学習型ボランティアとして発足したこの活動も早くも10年を経過しました。そして、これはボランティア活動（奉仕）をするという事は自分がボランティア（奉仕）されていると気付くに足る年月でもありました。この経験を礎として利用者にも図書館にとっても頼りにされるようなボランティ

アになっていきたいと思っています。最後になりましたが、図書館の方々の暖かいご支援に感謝しております。(尾崎みち子)

### 日本文化紹介活動に参加して

日本文化紹介は図書館ボランティアの活動として規定されているもののひとつです。これまで我々はこの日本文化紹介の名のもとで物語、おりがみ、かるた、和布を勉強し、留学生や海外からの研修者などに紹介してきました。

物語は具体的には日本に古くから伝わる昔話や日本人なら誰でも知っている話を朗読し、関連資料も合わせて紹介しようという活動で、平成9年3月の「竹取物語」をはじめとして、「一寸法師」「源氏物語」「安寿と厨子王」「平家物語」のリーディングサービスを行いました。しかし、我々の提供するメニューと相手側との関心のズレがあることが次第にわかり、活動はこの5回で見直しを余儀なくされることとなりました。

そんな中、おりがみを特技とするメンバーによるおりがみ勉強会が開始されていたことから、江戸時代に発達した古典的なおりがみを留学生に紹介するという活動が新たに浮上してきました。平成10年9月の留学生へのおりがみによる日本文化紹介を皮きりに現在までこの活動は続けられています。伝統的な日本の年中行事(正月、節句、七夕など)に即した作品の他、ユニットおりがみや新素材メッシュおりがみを使った作品にもチャレンジしてきました。これらの作品は適宜、メインカウンターおよび国際交流コーナー・地域情報コーナーに展示しています。

かるたはボランティアの活動のひとつである対面朗読の勉強会で、田辺聖子さんの「小倉百人一首」をとりあげたことがきっかけでした。百人一首のみならず、いろはかるたなど様々なかるた遊びをとり

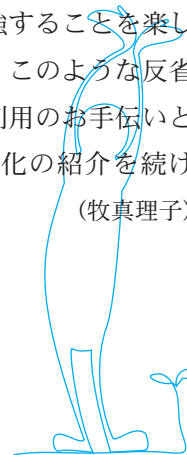
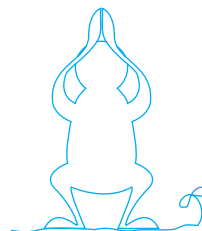
あげ、勉強会を重ね、平成11年12月、留学生を交えて百人一首かるた会を開催しました。その後毎年1月にはボランティア有志によるかるた会が開かれています。また平成13年11月には福岡県大牟田市にある市立三池かるた記念館へ見学にも行きました。



日本文化紹介の作品

和布はあるボランティアのおばあさまの、古布をパッチワークして作った作品がきっかけで、図書館の蔵書である「伝承の布遊び・ちりめん細工」をもとに勉強会を開き、四季折々の伝承のちりめん細工を作ってきました。この作品もおりがみ同様、館内に展示しています。平成13年9月にはおりがみ・和布合同の講習会を留学生向けに開催しました。また平成15年1月には体育・芸術図書館のラウンジでもおりがみ・和布の作品展及び講習会を開き、多くの方々に参加していただいています。

このようにして我々は身近な日本文化を紹介すべく今日まで勉強会を重ね、努力してきました。しかし果たして日本文化紹介に値する活動であったのかどうか。むしろ日本文化を勉強することを楽しんできたにすぎなかったのでは…。このような反省もしつつ、今後も外国人の図書館利用のお手伝いという環境下でできる限りの日本文化の紹介を続けていきたいと願っています。(牧真理子)



## (6) 特殊資料整理

筑波大学附属図書館の中でも、全国的にユニークな存在の体育・芸術図書館では特色ある資料として美術館・博物館等の展覧会の図録およびポスターの収集をしています。これらの特殊資料は、芸術を志す学生・教員にとっても大切な研究資料になっています。

展覧会の図録は、展覧会目録としてコレクションされており利用に供されていますが、一方で展覧会のポスターは保存のみという状態になっていました。平成11年度より両方の資料を体系的に整理し利用に供するという目的で、保存されていた展覧会のポスター約2000枚の整理が、ボランティアの協力を得て始まりました。

現在、ポスター整理開始より6年余りが経ち、ボランティアの手によって整理されたデータが、利用者への公開に向けて大きく歩みだそうとしています。

### 楽しみ！様々なポスターとの出会い

体育・芸術図書館での特殊資料整理（ポスター整理）活動が開始されると聞いた時、その内容を十分に理解しないまま、気軽に活動希望を出しました。作業をして初めてこれはポスターだけでなく展覧会目録（通称『展目』）やその他の関連資料を公開し、検索可能なものにするという責任ある活動とわかりました。その上、これは参加するボランティアが、それぞれの興味関心に応じて楽しみを見つけることにもなる素晴らしい活動であることもわかりました。

キャビネット内に開催年毎に保管してある約20年分のポスターは美術館、博物館の展覧会のもので、絵画、工芸、書等、様々な分野のポスターがあります。楽しく活動をして下さいと言われていましたので、初めの頃は、ボランティア各人がお気に入りのポスターから整理を始めました。1枚ずつポスターを広げ、テーマ・会場・会期・分類・展目の所蔵の有無などをデータシートに記入するのがボランティアの分担です。どの情報を記載するのがよいのかなど実際の作業手続について担当職員と検討を重ねたこともありました。展目がある場合は、それを手に取りポスターだけではわからない関連情報を調べます。展目は印刷も美しく、思い出のあるものもあったりしてついそちらに夢中になってしまうこともよくあります。

ポスター整理中、利用者から資料や端末操作について質問されることもあります。附属図書館ボランティアとしてこれに対応する必要があると考え、中

央図書館の総合案内活動やフォローアップ研修にも積極的に参加しています。



ポスター整理活動中

特殊資料整理の成果と保管されている資料の紹介として平成15年2月体育・芸術図書館で図書館主催の公開事業として特別展『ポスターのなかの女性たち』が開催されました。約100点の精選されたポスターの展示にあたっては、資料の準備、会場設営等のお手伝いをしながら芸術学系の先生や学生の皆さんのパワーあふれる作業や資料選定眼を垣間見ることができました。次回開催時には、ボランティアがさらに多くの作業に関わることができれば、なおいっそう、充実した生涯学習の楽しみと発見があるのではと期待しています。

様々なポスターや展目に出会えることだけでなく、この活動がいつか皆さんのお役に立てばという思い、またこれからこの活動がどのように変化していくのかなどいろいろなことが楽しみで地道に活動を続けています。 (鈴木悦子)

## (7) 図書館公開事業への協力

筑波大学附属図書館では、中央図書館に貴重書展示室を設け多くの人々に本学所蔵の貴重な資料を公開しています。特に年に一度開催される特別展では、毎回テーマに沿って貴重な資料が数多く展示され、ボランティアは主に会場警備に協力しています。

毎年図書館では特別展開催に先立ち、ボランティアを対象に特別展の概要や出品品の解説などを盛り込んだミニレクチャーを、本学教員などの協力を得て開催しています。ボランティアの生涯学習という視点からも、このミニレクチャーは大切なものとなっています。

### 特別展会場警備に参加して

平成16年度の特別展は「オリエントの歴史と文化」でした。私を含め、約25名のボランティアがこの特別展の警備に参加しました。

特別展の理解を深めるために、また、警備をするうえで役に立つようにと、事前に特別展ミニレクチャーが行われました。講師の秋山学助教授による講義が2時間行われ、多くのボランティアが出席して先生のお話について熱心に耳を傾けました。筑波大学附属図書館には、旧東京教育大学の時代を含めてオリエント学関係の文献が多く収められているそうです。彩色画だけが切り取られて残った文献の話や、旧約聖書とユダヤ教がつながっていたこと、また、ふたりで取り扱わなければならない大きな本を展示することなど、興味を引くお話が続きました。その中で印象に残ったのは、オリエント諸語の数の多さとそれぞれのつながり、そして解読です。ひとつの言語を解読するには、想像できないほどの労力や忍耐、そしてひらめきが必要だったのではないのでしょうか。

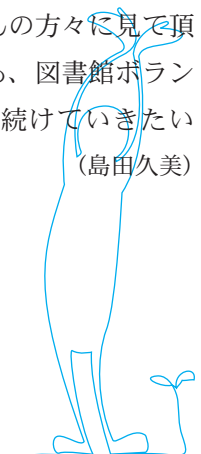
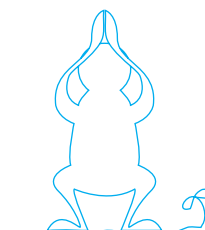
特別展では、山田重郎助教授・池田潤助教授・秋山学助教授を中心に大学院の方々の協力を得、象形・楔形文字の解読を果たした古代学の資料が、3部構成で公開されました。「イリアス・アンブロジーナ」彩色画が電子化され、スライドで写し出さ

れるといった工夫もありました。特別展当日には、学生はもとより、オリエント文化に興味のある方々が、大学外からも多く足を運ばれ、文献の一つひとつを熱心にご覧になっていらっしゃいました。



ミニレクチャー風景

筑波大学附属図書館には、まだまだたくさんの貴重な文献・資料が収められています。これからも公開事業が引き続き行われ、たくさんの方々に見て頂けることを望みます。そのためにも、図書館ボランティアとして公開事業への協力を続けていきたいと思ひます。  
(島田久美)



## (8) ボランティア活動の広報

ボランティアの活動内容や状況を、広く図書館利用者に知らせるため、利用者向けボランティア活動広報紙「うたがき」の企画・制作・配布を行っています。平成8年9月に創刊号が出され、現在第13号まで発行されています。初期の段階ではボランティアの活動内容や季節の話題など親しみやすい内容になっていましたが、第9号「ボランティア活動5周年記念号」から、テーマを決めてより深く活動内容が紹介されるようになりました。

### 活動に参加して

平成7年にボランティア活動が開始されたときは、広報は総合案内や対面朗読と並ぶ主要活動項目として位置づけられていました。また「広報」の概念としてボランティア活動を利用者や外部に伝えることを目的にしていたと思います。しかし当時は活動そのものがまだ始まったばかりで、具体的な広報活動には結びつきませんでした。当時の広報活動のリーダーであった神取久子さん(故人)がよく「活動なくして広報なし」と言っておられたことを思い出します。

やがてボランティアの自主組織として「図・ボラの会」が生まれ、ボランティア間のコミュニケーションの場として会報第1号が平成7年7月に発行され、当初の構想からは少し外れるものの広報活動が次第に活性化しました。

その次の段階として本来の目的である外部に向けた広報紙の発行が企画され、初代会長の発案で紙名を「うたがき」としました。これには古事記、万葉集にルーツを持つ言の葉文化を大切に思う人々が大学附属図書館にボランティアとして結集し、活動している様子を筑波の地から全国に向けて発信したいという思いが込められています。

「うたがき」第1号は平成8年9月に発行され、第8号までは活動、利用者(特に留学生や障害者)、蔵書、日本文化などに対する思いを表現した内容で、読者としては主に館内利用者を意識したものであったと思います。

平成11年度に入るとボランティア活動の内容はいっそう充実し、神取さんの悩みも解消されました。また日本図書館研究会主催「図書館学セミナー」

から招待を受けて活動を紹介し、茨城県自然博物館ボランティアと交流を行うなど外部にも目を向けるようになりました。

平成12年6月にはボランティア発足から5周年を迎え、これを記念して第9号「ボランティア活動5周年記念号」を発行しました。これはそれまでの活動を集約し、利用者にも外部にも伝えることを主眼にしたものでした。それ以降第10号「外国語でサービスするボランティア」、第11号「対面朗読サービス」、第12号「利用環境整備ほか」、第13号「自主研修Ⅰ」と活動内容とそれらに携わるボランティアの意識を利用者や外部に伝える内容のものが続きました。

このように広報活動の発展はボランティア活動の発展と両輪を成しており、今後も共に発展することを期待しています。さらに内容を深めることが今後の課題になると思います。(奥善三郎)



うたがき



「図・ボラの会」シンボルマーク

筑波大学附属図書館ボランティアは全員でボランティアの会「図・ボラ（ツボラ）の会」を組織しています。「図・ボラの会」は、活動曜日の異なるボランティア同士の交流を深めようと、ボランティア活動開始の翌月にボランティアの話し合いから生まれた自主的な組織です。図書館との連絡窓口としての役割も果たしています。

会の運営にあたるのは毎月開かれる世話人会です。世話人会で今後の活動計画などを話し合います。世話人会の報告、図書館からの連絡事項は「図・ボラの会」の会報で全員に周知されます。さまざまな研修や楽しい交流会も「図・ボラの会」主催で開催、多くのボランティアが積極的に参加しています。

ここでは「図・ボラの会」の主な活動である世話人会、会報、勉強会、交流活動、および「図・ボラの会」の歩み、会則を紹介します。（海津裕子）

## ■主な活動内容

### 世話人会

世話人会は「図・ボラの会」の目的に沿って、意志決定機関として「図・ボラの会」の運営にあたります。構成メンバーは会則により、会長、副会長、書記、会計と協力員および参加希望者です。協力員は月曜日から金曜日の午前、午後のコマから1名ずつ選ばれています。また、図書館から依頼されたコーディネーターの役割も併任しています。

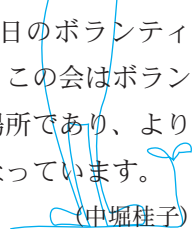
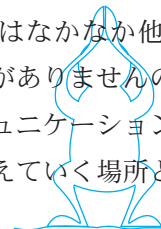
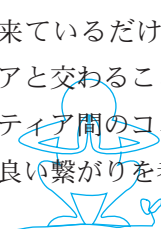


ボランティア控室での世話人会

毎月1回（8月は休会）活動時間内に開かれます。「図・ボラの会」の活動計画、自主的な各グループ活動報告それから図書館からの連絡事項等が話し合われます。その他、会員の皆さんに知らせたいこと、新たな活動の提案や日頃感じていること等々何でも話し合い解決していく場です。

協力員は各自のコマのメンバーにここで話し合われたことを伝えます。検討事項は話し合い、結果を次回に報告し、決定することになります。例えばボランティアの自主的な学外見学を行う場合、実行の是非、見学先の選択などこの会で話し合われ実施していきます。週に1、2回ボランティア活動にきているだけではなく他の曜日のボランティアと交わることがありませんので、この会はボランティア間のコミュニケーションの場所であり、より良い繋がりを考えていく場所ともなっています。

（中堀桂子）



## 会報

「図・ボラの会」では毎月1回会報を発行しています。月1回開かれている世話人会や図書館の職員の方々との打合せ会の報告、その月に行われた各種研修会、勉強会の報告・感想などのほか、プライベートな旅行記やお勧めの本の紹介、趣味のことなど個人的な情報も掲載されており、単なる事務連絡のみならずボランティア間のコミュニケーションにも役立っています。

第1号は平成7年7月、「図・ボラの会」の発足後間もなく発行され、その後8月を除き毎月滞りなく発行されて来て、平成16年4月にはついに100号を達成しました。



「図・ボラの会」会報

当初は広報活動を希望するボランティアが編集、印刷を行っていました。しかし、平成14年に広報の希望者が激減、その苦肉の策として曜日担当制が導入されました。これは同じ活動曜日のメンバーが協力して原稿依頼から編集・印刷まで行うというもので、この方策が却って同じ曜日の仲間同士の結束を強めるという結果を生み、また会報そのものもこれまでは「読むだけ」だったものがより身近に感じられるようになったという点で功を奏したようです。作成においても当初は書式もさまざまに編集も原稿を切り貼りして行うという、まさに手作り会報でしたが、平成12年からは控室に設置されているパソコンで、編集はもとより写真の取りこみや原稿の保存まで行うようになりました。会報作りひとつとっ

ても10年の時の流れを感じる次第です。

この記念誌発行に際しても、原稿執筆において会報が過去の記憶を呼び戻すことに大変役立っており、まさに会報はボランティアの10年の歩みそのものだという認識を新たにいたしました。（牧真理子）

## 自主的な勉強会

ボランティアは、図書館主催の事前研修で必修事項をひとつおとり受講した後活動を開始します。毎年数回フォローアップ研修も行われます。しかし実際に活動を始めてみると、「図書館の利用者に役立つ活動ができるようになるためには自分たちがもっと勉強しなくては」と痛感し、活動開始直後から、ボランティアが自主的に次々と勉強会を開くようになりました。どの勉強会にもすべてのボランティアが自由に参加できます。



見学案内勉強会

- ・図書館探検（H7～9）
- ・CD-ROM、Tulips、端末操作研修（H7～）
- ・カウンター活動研究会（H13～）
- ・カウンター英会話勉強会（H16～）
- ・対面朗読勉強会（H8～）
- ・障害者サービス勉強会（H10～）
- ・見学案内勉強会（H7～12）
- ・リーディングサービス勉強会（H8～9）
- ・おりがみ勉強会（H10～）
- ・和布勉強会（H12～）

（海津裕子）

## 図書館職員とボランティアとの交流会

年2回ある館長主催の懇談会の終了後、引き続き昼休みを利用し、「図・ボラの会」主催の交流会を開いています。初年度冬の第1回より毎回続いてきていて会費制です。懇談会出席者の他、職員の方々にもご参加いただいています。

かしこまった雰囲気での会議から一転して楽しい会話の時間にと願い、会場には普段の活動の成果としておりがみ・和布の作品展示や季節の花材で活花をそえたりなどして、ムード作りに励んでいます。料理は予算内で最大限美味しくなるよう、工夫しています。残念なのは施設機能の限界のため、最後に美味しいコーヒーを出せないことでしょうか。回数を重ねて参加者の御歓談が進んできたことがなによりと存じます。(中島真哉)



なごやかな交流会風景

## 外部との交流活動

平成7年に発足した図書館ボランティアは、平成11年度になると活動内容、「図・ボラの会」を中心にしたボランティアの自主運営ともに軌道に乗って来ました。内部的な態勢が確立した機会に外部にも目を向け、世の中の同種ボランティアはどんな活動をしているか知り、また外部から見た我々の姿を知りたいという興味が湧いて来ました。

「図・ボラの会」世話人会で他のボランティアとの交流を行うことを決め、まず県内にあり、ボランティア活動で実績を上げている茨城県自然博物館ボランティアとの交流を行うことにしました。平成

12年2月に当方から18名のボランティアが自然博物館を訪れました。館内には恐竜化石など豊富な資料がセクションに分かれて展示されていますが、先方のボランティアはそれらを我が庭を歩くように案内されました。マニュアルとは一味違う奥深い説明をセクションを網羅して行われることに感銘を受けました。次に双方のボランティアの交流会を行いました。博物館ボランティアが自主的に活動内容を拡大することによって登録者数が年々増加していること、それらの活動のレベルを維持・向上するために学芸員とともに研修に励んでいることを知りました。



茨城県近代美術館を訪問

第1回ボランティア交流会は非常に得るところが多く、次年度からも交流会を続けることが決まりました。現在までに茨城県近代美術館、国立科学博物館、日本科学未来館および江戸東京博物館のボランティアと交流を行いました。また茨城県自然博物館および茨城県立図書館ボランティアの来訪も頂いています。

これまでの交流先は博物館、美術館などで、当図書館とは制度的に異なる面もあり、そこで得た情報がそのまま当ボランティアに当てはまるものではありません。それでもなお、ボランティア活動に生甲斐を見出して明るく元気に活動している方達の活動を見させて頂き、ともに心の内を語り合うのは楽しいものであり、今後も交流会は続くだろうと思います。(奥善三郎)



## ■ 「図・ボラの会」の軌跡

### 「図・ボラの会」ができた頃

「このまんまじゃ、どうにもならない」ボランティアとして活動を始めてすぐ、胸の底でこんな悲鳴を上げたのがすべての始まりでした。図書館に親しみ利用するということと、図書館を提供する側に座るということには想像を超える落差があることに初めて気付いただけでも大変なこと。加えて、この頃当図書館は電子図書館へと最高速で走っていたからです。

楽器と同じでコンピュータも慣れなければ上達はしないもので、週1回の活動内だけでは上達の見込などありません。しかしあれよあれよと言う間に雑誌の冊子体リストが撤去され、もう使いこなすほかなくなつて。気がつけばここは私が長く親しんできた、かすかに黴臭い本やカードに囲まれた既知の図書館ではなく、時代と共に、あるいは先んずる存在を目指すところなのでした。

無論研修はありましたが、それだけでこの脳髓が飲み込めるワケがないのです。色々度々学習するも、かすかな痕跡を残し、肝心なことは次回の活動までの時間がきれいに流し去り、とにかく、このままではやっていけないことだけは確か。多くの仲間が危機感一杯で意気投合。日々の理解や情報を共有しよう、ということでボランティアのアイデアで「お助けノート」が始まったし、メンバーを講師にコンピュータの勉強会が頻繁に企画されました。そんな一期生の熱い盛り上がりのなか「図・ボラの会」が成立命名されたのでした。

記録によると「図・ボラの会」成立は当年7月ごろ。今考えてみると問題発生から実行まで、手早く事態を進行させた故・神取久子氏はじめ数人の功績は大。呆然と進行を見守っていた木偶の坊は、「会の名前を付けなきゃ、どうする？」となったところでボランティアと齟齬をかけて「図・ボラの会」でどう、ということになりました。オヤジギャグならぬ寒いオバギャグですが、問題意識の高い面々は悩んで検討、は上手ですが、軽佻に決めるのは苦手らしく「図・ボラの会」「うたがき」と続々と案が通つてしまつて今日に至るのです。

会ができ数ヶ月、今では恒例の交流会を開きました。年を越す頃、翌年度に向け体制を整えることを考えるようになりましたが、集会のたびに各メンバーから御意見続出。「会則のない会なんて考えられない！」という発言も飛び出し、慌ててあつてもなくても同然の茫洋とした会則を作ったり、会長選挙をしようとしたら突然会長選出反対演説が始まったり仰天の連続でした。メンバーが集合体になること自体に拒否感を持つ孤高の人もいて、滑り出しの頃はなにかとつまづいたり転んだり多難でした。このように「会」成立自体は早かったのですが、私が会長となった平成8年度以後も運営には難航、しかし、歴代のボランティア担当職員の温かい支えもあり少しずつ今日まで進んできたのです。

今の「図・ボラの会」は、熱く粘り強く、慎重に確実に、そして楽しく意思疎通や連帯感を育ててきたオトナの智恵の集積の成果だと思えます。ボランティアという、社会の枠へのしなやかで折れないプロテストの柳の幹になりました。そして老若男女奇妙な縁でつながった何十人かが、いきいきと多面体で活動できるなんて、とっても素敵なりゆきではありませんか？

(中島真哉)



ボランティア控室にて

### 会長を引き受けた頃の事

私が会長を引き受けたのは平成10年4月でした。その直前にボランティア活動にとって大きなふた

つの変化がありました。平成10年1月、附属図書館がかねてから準備中だった「電子図書館」が完成しました。そして、その端末がボランティアカウンターに設置されました。また、図書館はボランティア組織に「コーディネーター」制度を取り入れました。このふたつが、現在の活動の基礎を築いたような気がしています。

新しい電子図書館はインターネットを介して学内蔵書検索（WWW版OPAC）、学外蔵書検索（NACSIS Webcat）などの文献情報のほかに学術論文情報データベース、全文情報など多くの情報を提供してくれる強力なものでした。操作がそれ以前の検索システムに比べるとずっとやさしく、ボランティアカウンターの端末からキー入力とマウス操作でナビゲーションできるので、利用者の要望にすばやく対応できるようになりました。利用者に役立つ活動がそんなに時間をかけずにできるようになり、ボランティアに大きな自信を与えてくれました。



電子図書館オープニングセレモニー

また、コーディネーター制度とは各コマ（活動最小単位）から1名のコーディネーターを選出し図書館との日常の連絡に当たるというものでした。「図・ボラの会」の会長となった私は「図・ボラの会」の組織である各コマを代表する世話人がコーディネーターを兼任するという形をとるように働きかけ、了解を得ました。これによりその後の図書館とボランティアとの意思疎通がずいぶん改善されるよう

になったと思います。図書館は平成11年度のボランティア募集でボランティアは「図・ボラの会」に入会することを条件としました。この時をもって「図・ボラの会」は名実ともにボランティアを代表する会となり、ボランティア内の体制は整ってまいりました。

（高田定司）

## 新しいボランティア文化の創造

平成11年度に「図・ボラの会」会長の役を務めたときは、それまでの3年間におけるボランティアと「図・ボラの会」の努力が実を結んでボランティア活動の態勢が整い、さらに内容的な充実を図る時期に来ていました。

図書館総合案内や対面朗読、見学案内等の活動が軌道に乗り、新しく、利用環境整備と体育・芸術図書館の特殊資料整理の活動も加わりました。しかしながら、一方では、職員業務との線引き、利用者へ誤情報を与える危険性、ボランティア内部におけるボランティア活動に対する見解の相違などの問題も相変わらず生じていました。「図・ボラの会」は自主研修の充実、会報や食事会を通じてのボランティア間の交流促進などによって矛盾のない形に収めるのに役立ってきたように思います。それには、図書館側がボランティアの成長を根気よく見守り、「図・ボラの会」を認知して活用してくれたことも大きかったと思います。

その結果、ボランティア活動は次第に成熟段階に達しました。ここに図書館とボランティアの協同作業によって新しいボランティア文化が創造されたといっても言い過ぎではないと思います。

もうひとつの見方として、この10年は社会にとって、また大学にとって特異な10年でした。すなわち社会にとっては急激な情報技術の普及、大学にとっては独立法人化がありました。図書館業務もそれに携わる人々の意識も大きく変わりました。それに対してボランティアも柔軟に対応し、図書館運営を部分的にせよサポートすることができたのは、図書館－「図・ボラの会」－ボランティアを結ぶフレキシブルなシステムが効果的に機能したからではないかと考えます。

（奥善三郎）

## 筑波大学附属図書館ボランティアの会「図・ボラの会」会則

(名称)

第1条 本会は、筑波大学附属図書館ボランティアの会「図・ボラの会」と称する。

(組織)

第2条 本会は、筑波大学附属図書館登録ボランティアをもって組織する。

(目的)

第3条 本会は、会員同士の交流を図ると共に図書館に対する理解を深め、充実したボランティア活動を目指す。

(活動)

第4条 本会の目的を達成するために、次の活動を行う。

- 1 会員相互の連絡
- 2 会報の発行
- 3 研修会、親睦会等の開催
- 4 本会と図書館との連絡
- 5 その他本会の目的を達成するために必要と思われること。

(世話人)

第5条 本会は次の世話人を置く。世話人は、世話人会の構成員となり、本会の運営にあたる。

会長	1名
副会長	2名
書記	若干名
会計	若干名
協力員	各コマ・各活動の代表者および希望者

(世話人の選出)

第6条 会長、副会長、書記および会計は、会員の中から選出する。

(世話人の任期)

第7条 会長、副会長、書記および会計の任期は4月1日から1年とする。

付則

この会則は、平成8年6月21日から実施する。

付則

この会則は、平成8年10月28日から実施する。

付則

この会則は、平成15年3月14日から実施する。

## ■図書館ボランティアの課題

徳田克己

図書館ボランティアの方々は筑波大学にとって欠かすことのできない存在になっています。図書館業務の遂行の上で必要なマンパワーという役割はもとより、大学があまり得意としていない地域との交流の窓口という役割があります。まさに「地域の力」を背景とした活動です。

大学の附属図書館ボランティアがこれほど組織的に、図書館職員と連携をとりながら円滑に活動できている例は我が国にはありません。つまり、筑波大学のケースは全国のモデルになるのです。この記念誌も図書館ボランティア活動のマニュアルとして活用されていくでしょう。

ここで今後の課題を整理してみたいと思います。

1. どのボランティア活動にもあてはまることですが、活動の多くが女性によって支えられています。しかしどの地域にも定年退職した男性が大勢います。語学やパソコンなどの高い技能を持った方が多くいます。そのような有閑男性退職者が魅力を感じる活動にしていくための作戦を考えていく必要があります。活動に参加すると、地域の友人が増える、世界から来ている留学生と仲良くなれる、パソコンの技術が高まる、貴重な本に巡り合えるなどのすばらしい成果があります。それらをいろいろな言葉で伝えていってほしいものです。
2. 図書館ボランティアの活動は図書館職員の業務補助ではありません。この記念誌の随所に語られているように、独立した自主的活動であり、また図書館職員と協調した活動であり、さらにボランティア自身が様々なことを吸収する学習活動です。今後はこの「学習」をさらに進めていかななくてはなりません。そのためには大学がその機会をさらに多くボランティアに提供していくとともに、ボランティア自身が「何でも勉強するぞ」という構えで活動に参加してほしいと思います。うれしいことに、現在のボランティアの方々にはその構えが十分にあります。それをもっとアピールして、思考も活動範囲も狭い傾向にある現代の学生たちに「学びの姿勢のモデル」を示していただくことを切望します。
3. 図書館ボランティアの活動は現在のところ図書館内の活動に限られています。しかし、大学内には障害のある学生や日本語ができない留学生などの「支援を必要としている人」がいます。現在でも視覚障害者に対する対面朗読ボランティアを行っている方々は対象者の生活上のサポートをすることがあるようです。今後は図書館ボランティアがモデルとなって、地域の人たちが大学のより広い活動に参加できる「大学ボランティア」に発展していくことが望まれます。このことは大学の地域開放や地域連携の重要なポイントになります。

(とくだ・かつみ 大学院人間総合科学研究科教授、ボランティア専門委員会委員長)



## ■座談会「ボランティアのこれから」 2005.1.20

(出席者)

徳田 克己	ボランティア専門委員会委員長
太田恵理子	附属図書館ボランティア
奥 善三郎	”
中島 真哉	”
柳沢由紀子	”
横井 清和	”
菅原 英一	附属図書館情報管理課長 (司会)
山田 利英	” 情報管理課課長補佐
大久保明美	” 情報管理課専門職員
岡部 幸祐	” 情報サービス課図書サービス係長
鴨志田美由喜	” 情報サービス課レファレンス係長

**司会** ボランティアを導入してから本年6月で10周年を迎えるにあたり、記念式典及び記念誌発行の準備を進めているところです。その中で、ボランティアの今後を展望するという企画の一つとして「ボランティアのこれから」というテーマで座談会を行うことになりました。本日御出席の皆様にはザックバランに御発言をいただき、本座談会が実りあるものとなるよう進めていきたいと思っております。

**徳田** 附属図書館では、ボランティアの協力を得て運営していること、ボランティアの生涯学習の場を提供しているということが全国の大学図書館のモデルになっていると自負しているところです。この会は、「ボランティアのこれから」というテーマで今後どうあるべきなのかを、ボランティア自身の問題、図書館との関係の問題、図書館職員はどのようにボランティアに活躍してもらいたいかな等について前向きな話し合いができればと思っています。

**司会** 徳田先生のお話を踏まえ、ボランティア及び図書館員の立場から見て、日頃の活動から一歩先んじて感じることがありましたら、そのあたりから御発言をお願いします。

### ボランティアと評価について

**横井** 男性定年退職者にもっと魅力ある図書館ボランティアにしてもらいたいという気持ちがあります。今は、女性のパワーが強いので、今後は男性が参加できるよう、男性に魅力ある図書館ボランティアとはどういったものかを話していただきたい。



**岡部** 図書館自体が、ボランティアのみならず職員についても女性が多くなっています。その中で働いている男性としては、特に意識したことはないのですが、男性の応募が少ないのは、ひとつにはボランティア活動に対する取り組みかたの違いではないかという気がします。

**中島** 男女比については、今までほとんど考えたことはなかったし、男性に魅力があるかどうかは、物事に対する評価の違いがあるのかもしれないと思っています。女性は毎日の生活がすべてボランティアのようなところがあり、物量の評価を求めているのでボランティアが続けていけると思います。女性の方でやめていくボランティアは、何らかの形で評価されるのを求めているのではないのでしょうか。社会の中で評価と勤労を結び付けてきた男性には、ボランティアに参加しにくいのではないかと思います。



**柳沢** 現在ボランティアを続けている男性の方は、今のボランティアの状況は魅力あるものなのでしょうか。

**奥** ボランティアとして10年近くいるのは、何かそれぞれ魅力があるからです。私は、利用者のためにいろいろなことを行ってきましたが、図書館のため、利用者のため、自分のためと、いろいろな活動に重点を置いている人がいますので、それぞれの人がバランスよく活動できることが重要ではないかと思っています。そのためにも図書館側から指導を

して欲しいと思っています。

**徳田** 図書館ボランティアは評価を求めない人がやるものだとは言いきれないし、今後は、ボランティアのモチベーションを高める意味では何らかの評価は必要ではないのでしょうか。

**柳沢** 評価には絶対反対です。評価がなかったから、今まで続けてきたと思っています。

**岡部** ボランティアと評価についての話題はおもしろいと思っています。図書館も法人化後、絶えず評価が後ろからついてきています。ボランティアと評価についてはきちんと認識しておくべきだと思うので、社会的にどう捉えられているのか先生にお聞きしたいのですが。

**徳田** そもそも評価とは自分達が今行っていることに対して、客観的に見て次にどうしたらいいのか資料を集めることなので、すべての人間の活動において評価は必要だと思っています。皆さんは他者からの評価について不要だと思われていますが、自分自身では評価をしている筈です。図書館がボランティアを、あるいはボランティアが図書館を評価するというような、明日に向かっての評価を議論することが必要であると思います。

**奥** ずっと続けているのは自分も評価しているし、図書館も評価していると理解しています。やめていく人は、自分での評価がうまくできていないのではないのでしょうか。

**太田** 評価については、私自身余り考えたことがありませんでしたが、先ほど中島さんがおっしゃったように性差があり、続いている男性の方は、やはり社会的評価とは別の価値を見出しておられるのではないかと思います。男性は、定年後の時間の使い方がわからないといったこともあると思いますので、意識改革が必要なのではないのでしょうか。

**山田** 個人のボランティア活動について評価をする必要はないと思っていますが、活動を推進するための評価というものは必要であると思います。その結果、活動内容が魅力的なものとなっていくような気がします。

**中島** 何らかの対価を期待しているのではなく、評価とは、自分自身の中での評価や図書館の職員の視線などから評価を感じたいと思っています。

**徳田** 評価そのものが物理的な代償を求めるのではなく、図書館職員とボランティアとが、いろいろなことについて話し合うことも評価のひとつであると思います。これからは、図書館の在り方、図書館職員の在り方、ボランティア活動の在り方等についての意見交換の場を年に1度ぐらい設けてはどうでしょうか。

**大久保** もうすぐ10年を迎えるということで、図書館職員とボランティアとの距離が縮んできたような気がします。今後は、いろいろな事柄を職員とボランティアが自分達のできることにについて話し合う機会を設けたらいいと思います。

**司会** 評価に対する意見はこの位にして、次の課題として、図書館の第三の目としてのボランティアの皆さんから見て、図書館への意見・要望等について御発言をお願いします。



### 図書館の第三の目として

**鴨志田** ボランティアの皆さんが、日頃から利用者の立場で不便を感じていることを、図書館にフランクに言えるような場がないような気がします。毎月行っている役員の方々との打合せ会とは別に、ボランティアと図書館との意見交換の場も持てればよいと思っています。

**大久保** 以前は、ボランティアに責任のあることは任せられないという気持ちが図書館の中にあっただようですが、最近ではボランティアを、図書館の戦

力として考えている職員も増えてきているように思います。今後は、ボランティアと図書館が図書館業務について話し合いを行ったうえで、生涯学習に値する業務をお願いすることにはどうかと考えています。

**柳沢** 当初ボランティアは、図書館の中にあっというものと認めもらうために苦労していたような気がします。それが10年かかってようやく認知されたのではないのでしょうか。ボランティア活動を、労働と思ったことはなく自分自身の生涯学習としてやってきたので、ここまで続けてきたと思います。また、ここ数年は「第三の目」としての提案を、図書館で受入れて改善してくださることも多くなりました。

**太田** ここ数年は、ボランティアの話を図書館としてもよく聞いてくれるので、遠慮のない私にとってストレスはないが、遠慮がちなボランティアもいるので、そんなボランティアの声も聞いて参考にして欲しいと思います。

**徳田** ボランティアとの信頼関係は、図書館職員はもとより、ボランティアを担当している職員の役割が重要であると考えています。

**中島** 遠慮がちの方もいらっしゃるようですが、多くのボランティアは積極的であり、日誌等にいろいろな要望は出していると思います。

**奥** 始めた頃は、みんなが真面目に利用者の立場から意見を言っても、統率がなく、訓練されていないボランティアと職員との対立が起こりがちだったが、ボランティアの方が前向きだったように思います。最近では、ボランティアと図書館はうまく付き合っているが、図書館が本当に前向きかどうかは疑問なので、本気になって考えて欲しいと願っています。

**柳沢** ボランティアの付加価値ということから考えると、障害者サービスと外国語サービスは職員の方が担当されないということもあり、まさに付加価値であると思います。このことを図書館側がもっと積極的に利用して欲しいと考えています。また、活動内容、時間帯、メニューなどについても付加価値を高めひろげる方向で、前向きに考えていただきたいと思います。

徳田 付加価値を高め、広げるとは、具体的にはどのようなことでしょうか。

柳沢 例えば、対面朗読のサービス時間を拡大（夜間、土・日・祝日への対応）し、需要と供給のバランスを考えると、中国語での案内等が考えられると思います。

山田 ボランティアの活動に対し、図書館側が生涯学習以外にどこまで求めていいのか判断できないことと、遠慮があるのではないかと考えています。先ほどのサービス時間についても、ボランティアの皆さんと活動内容について話し合いを行わないとわからない部分があると思います。

### 自分自身の生涯学習とは

徳田 図書館の業務をボランティアの方が支えてこられた中で、その業務を生涯学習としてとらえている方が残り、そうでない方が辞めていかれるということですが、新しいボランティアの方が辞めないようにするには、先輩ボランティアが教えていくべきなのか、図書館がそのような研修を用意すべきなのか、そのあたりについて発言をお願いしたいと思います。



フォローアップ研修：見学案内 (H16.6)

横井 ボランティア一人ひとり求めるものが違うので、研修は人によっては大きな学習になる場合もあるし、重荷になる場合もあると思います。しかし

研修には、大学でお金と人手をかけて欲しいと考えています。

中島 ボランティアの能力を活用する場だけではなく、ボランティアの活動能力を開発する場でもあって欲しいので、図書館の研修は大切であると思います。



フォローアップ研修：上製本の作り方 (H16.10)

大久保 研修には、47名のボランティアのうち、約半数の固定メンバーの方が参加されており、自分の生涯学習として認識し活動していらっしゃいます。残りのボランティアの方は、自分が興味のある活動のみに参加されているケースが多く、研修等を強制することができないので、ボランティア全員を同じレベルに到達するのは難しいことだと思っています。

太田 いろいろな個人差があるのがボランティアなのだから、それらを考えながら、ボランティアのスキルアップを図っていくべきだと考えています。

山田 ボランティア活動は実際に希望していても初めての方ができないこともあります。図ボラの会のなかで、親睦を図りながら活動の内容を話し合っ

て欲しいと考えています。その上で、活動内容について図書館と調整できればと思っています。奥 図ボラの会では自主的な研修を行っているが、強制はできないと思っています。過去には、活発にいろいろな研修をしてきたが最近では参加者も少なく、ボランティアの意識改革も必要であると考え



ています。

**山田** できれば図ボラの会で自主研修等をとおし  
てボランティア個々のスキルアップを図りながら  
活動を調整して欲しいと思っています。足りない部  
分は図書館としても応援していきたいと考えてい  
ます。

**柳沢** 協調体制ですね。しかし、ここのボランティ  
アは個性的でまとめるのが難しいし、活動に参加  
しているだけでいいという方もいるので、図ボラの会  
で活動を調整することは難しいと思います。

**大久保** 本来は図書館がやらなければいけなかつ  
たいろいろな勉強会を、ボランティアがそれぞれの  
得意分野を活かし勉強会を開き、ボランティア自身  
のスキルアップに貢献してきたことは、評価に値す  
るものだと思います。

**岡部** 発足当初、図書館ボランティアの目的として  
生涯学習を掲げていたので、研修の押し付けはでき  
なかつたような気がします。逆に図書館からの押し  
付けがなかつたので、ボランティアが自主的に勉強  
会を開きレベルアップしてきたのではないでしょ  
うか。

**大久保** ボランティアの皆さんは向上心豊かであ  
り、新しい情報には敏感であると思います。図書館  
で新しいことを始める時には、ボランティアに対  
しても研修等をしたほうがよいと思われませんが、参加  
については強制してもいいのでしょうか。図書館と  
しては、一番確認したいところなのですがいかがで  
しょうか。

**奥** 図書館との調整役になっている図ボラの会も  
リニューアルして、役割を果たすべきであると感じ  
ています。

**横井** 研修は強制してもらったほうが良いと思  
います。ボランティア活動は、図書館にも役立ち、利  
用者にも役立つことが必要不可欠なので、最低レベ  
ルを保てるように教育すべきであると考えます。

**太田** ボランティアの顔ぶれで、サービスの内容に  
差があるのは、利用者に対して問題があるので、あ  
る程度のレベルを維持したいという気持ちを持っ  
ています。

**奥** ボランティアの採用の見直しをし、レベルの高  
い人を求めるべきであると考えています。この10年

間でボランティア活動の内容が、相当高度化したこ  
とは事実です。それに伴って新人にはかなりのスキ  
ルアップが求められると思います。

**山田** 図書館としては、意欲のある人は採用して  
いるし、これからも努力していきたいと考えていま  
す。

**中島** 何もできない私に、自分で自分を磨くチャン  
スを与えてもらったのは、まさに生涯学習である  
と思っています。

**司会** 時間も残りわずかとなってきましたので、最  
後に一言ずつお願いし、徳田先生に締めていただき  
たいと思います。



## 最後に一言

**柳沢** 私の場合、朗読の技術を生涯学習の場におい  
て獲得し、ボランティア活動の中で生かしながら、  
その都度、得るものがあり活動そのものが生涯学  
習であるように思います。活動そのものに意義があ  
り、筑波大学での対面朗読は現在の私にとって最も  
大切なことのひとつです。これからも、私達の意欲  
を積極的に活用していただきたいと考えています。

**奥** 過去の10年は大変革の時だったが、今後の10年  
は予測できないし、これからはその場その場で、図  
書館側とボランティアが腹を割って話し合う場を  
作る大切であると思っています。

**横井** 自分の知らない世界を覗きたいという気持  
ちからボランティアをしています。今後は、図書館

がどんどん変わってボランティアも変わっていくことを期待しています。

**中島** 活動に対しては、自分自身に厳しく、ベストな状態がかかりたいと思います。これまで続けてきたのは、自分にとっていい方向で力が尽くせたらだと思っています。

**太田** IT化が進んで、ボランティアカウンターにくる人が減ってきたように感じます。利用者数は変わらないといっても、活字離れが進んでいるような気がします。さらに、きめ細かな活動を行っていきたいと思っています。

**嶋志田** 最近の学生は図書館が必要なのか、今後の図書館はどうなっていくのかは、図書館職員も考えていかなければならない課題であると思います。個人的には、カウンターのあり方とかを考える余地があるのではないかと考えています。

**岡部** ボランティアの方には、図書館の中での偉大なるアマチュアとして、いろいろな提言を出して欲しいと思います。そして、ボランティアがやりたいことと、図書館がやって欲しいことが一致するようになればいいと考えています。その実現は図書館にとってもプラスになると思います。どんどん意見を出してもらい、図書館も努力しなくてはいけなくなるような状況に追い込んで欲しいと願っています。

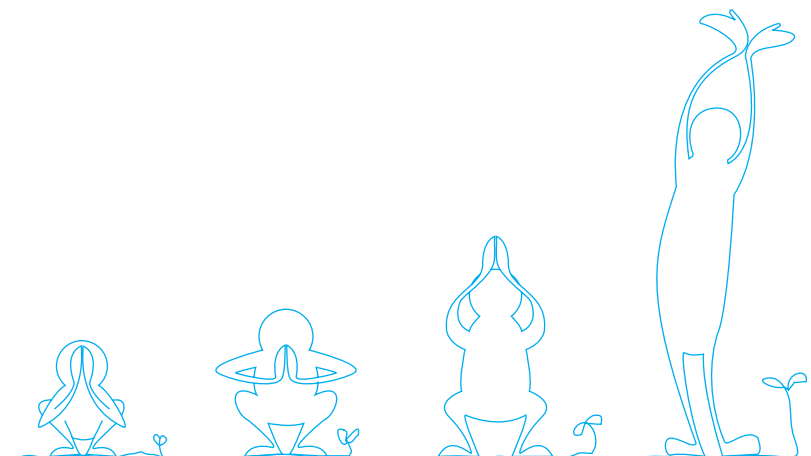
**大久保** 図書館はサービス業であり、ボランティアも図書館の職員も利用者のために目指していることは、共通していると思います。ボランティアの生涯学習について、うまく図書館の業務とすりあわせることができれば、活動はさらに広がっていくと思います。職員とは違った目で、いろいろな意見を出してもらい、ボランティアの皆さんにはこれからも益々活躍して欲しいと願っています。

**山田** ボランティアのやりたい部分については、図書館としてはできる限り受入れていきたいと思っています。しかし、できるものとできないものがあるので、大学側とボランティア側の要求を見ながら、これからも発展できるように取り組んでいきたいと考えています。



**徳田** 今日の座談会はとても興味深いものになりました。ボランティアの評価、第三の目としてのボランティアの存在意義、生涯学習としての活動の場、業務の面での個人差、採用の問題などいろいろな話し合いができました。そして、今回の座談会のように、フランクに日常的にボランティアと図書館の職員のコミュニケーションを図る場を設けるべきであることを痛感しました。

**司会** 本日は長時間にわたり活発な意見交換ができ、感謝しております。これをもちまして座談会を終わります。有り難うございました。



## 筑波大学附属図書館ボランティア受入れ及び活動実施要項

〔平成11年9月17日〕  
制 定

(趣旨)

- 1 筑波大学附属図書館（以下「附属図書館」という。）におけるボランティアの受入れ及び活動については、この実施要項の定めるところによる。

(定義)

- 2 この実施要項において、「ボランティア」とは、附属図書館の利用者の援助を目的とし、生涯学習の一環として、自らの自由意思により、その知識・技能を無償で提供する者をいう。

(活動内容)

- 3 ボランティアの活動内容は、次の各号のうち、附属図書館長が適当と認めた範囲とする。

- (1) 利用案内
- (2) 身体障害者支援
- (3) 利用環境整備
- (4) その他

(登録等)

- 4 附属図書館において、ボランティア活動を希望する者は、別に定める募集要項に基づき、附属図書館長に申請するものとする。
  - 4-2 前項の申請があった場合は、ボランティア専門委員会委員若干人で選考を行い、附属図書館長に推薦する。
  - 4-3 附属図書館長は、前項の推薦があった者に対し事前研修を行い、研修を修了した者に活動を許可する。
  - 4-4 附属図書館長は、前項の受入れを許可したときは、ボランティアとして登録するとともに、別記様式第1のボランティア許可証を交付するものとする。
  - 4-5 ボランティアの活動期間は、当該年度内とする。ただし、ボランティアが更新を希望し、附属図書館長が活動実績等に照らして適当と認めた場合は更新を許可することができる。
  - 4-6 附属図書館長は、ボランティアが附属図書館の業務に支障がある行為を行ったときは、許可を取り消すことができる。

(辞退)

- 5 ボランティアは、自己の都合によりボランティアを辞退しようとするときは、附属図書館長に別記様式第2によりその旨申し出るものとする。

(遵守事項)

- 6 ボランティアは、本学の学内規則を遵守するとともに、職員の指示に従わなければならない。
  - 6-2 ボランティアは、ボランティア活動の過程において知り得た利用者の個人情報等を漏らしてはならない。ボランティア活動を退いた後も同様とする。
  - 6-3 ボランティアは、ボランティア活動に際し、ボランティア許可証を携帯するとともに、附属図書館が貸与するネームプレートを着用するものとする。

(図書館の利用)

- 7 ボランティアは、図書館資料の貸出を受けることができる。

(ボランティア保険の加入)

- 8 ボランティアとして登録された場合は、ボランティア保険に加入するものとする。

(事務)

- 9 ボランティアの受入れ及び活動に関する事務は、情報管理課が行う。

(細目)

- 10 この実施要項に定めるもののほか、ボランティアの受入れ及び活動に関し、必要な細目は別に定める。


附 則

- 1 この実施要項は、平成11年9月17日から実施する。
- 2 筑波大学附属図書館ボランティア受入実施要項（平成7年2月17日附属図書館長決済）は、廃止する。

## 別記様式第 1

<b>筑波大学附属図書館 ボランティア許可証</b>	
氏 名 _____	登録番号 _____
活動期間 _____ 年 _____ 月 _____ 日 ~ _____ 年 _____ 月 _____ 日	
写          真	上記の者は、本学附属図書館においてボランティアとして許可を受けた者であることを証明する。
	発行 _____ 年 _____ 月 _____ 日
	筑波大学附属図書館長 _____ 印

(表)

注 意	
1 この許可証は、ボランティアとして活動する際に必ず携帯すること。	
2 この許可証は、他人に譲渡又は貸与してはならない。	
3 この許可証を紛失したときは、速やかに発行者に届け出なければならない。	
4 この許可証は、活動期間を満了したとき又は記載事項に変更があったときは、発行者に返還しなければならない。	

(裏)

備考 規格：縦5.4cm×横8.6cm

## 別記様式第 2

<b>辞 退 届</b>	
平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日	
筑波大学附属図書館長 殿	
平成 _____ 年度附属図書館ボランティア	
氏 名 _____	
私は平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日をもって、附属図書館ボランティアを辞退したいので、お届けします。	

## 平成17年度筑波大学附属図書館ボランティア募集要項

筑波大学附属図書館は、平成7年度から地域におけるボランティア活動の希望者に活動の機会を提供するため、「大学図書館ボランティア」制度を設けております。このボランティア活動は、本学附属図書館の利用者に対する援助のため、自らの意志に基づき、ご自身の生涯学習の一環として、その知識・技能を無償でご提供いただくものです。活動される皆様のご支援によって、利用しやすい図書館環境をつくり、より積極的なサービスの向上に努めたいと考えております。

### I 活動内容・時間等について

#### 1 活動内容（必須）

下記の（1）から（4）の活動は、全員がいずれか1つ以上を担当していただきます。

（原則として（2）の活動を希望される方は（1）または（3）を含むこととします。）

##### (1) 図書館総合案内

中央図書館のボランティアカウンターで、館内窓口案内や資料配置・探索の案内、端末操作の案内、各種申込書の記入指導、身体に障害のある方や日本語に不慣れな留学生などの図書館利用の支援をします。

##### (2) 対面朗読

中央図書館の対面朗読室で、視覚障害者のために対面朗読を行います。また、館内で資料探しの援助をすることもあります。この活動は対面朗読サービス経験者または、対面朗読の講習を受講済の方に限ります。

##### (3) 利用環境整備（主題別フロア整備）

中央図書館及び、体育・芸術図書館各階の書架の乱れを直したり、図書ラベルを貼り直したりして、利用者が使いやすいように環境を整えます。

##### (4) 体育・芸術関係資料整理

体育・芸術図書館で、美術展等のポスターのリストを作ります。

\*新規登録者は中央図書館での活動から始められることをお勧めします。

#### 2 活動内容（選択）

下記の活動は、各自希望があれば選択していただきます。

##### (ア) 図書館見学案内

##### (イ) 留学生オリエンテーション補助

##### (ウ) 外国人のための日本文化紹介

##### (エ) 利用案内等の翻訳

##### (オ) 図書館公開事業への協力

##### (カ) ボランティア広報紙『うたがき』の発行

#### 3 活動日

月曜日～金曜日のうち、あらかじめ決めた曜日の午前（10時～12時）または午後（1時～4時）の半日間。毎週1回以上。

※上記の活動日以外に、年に数回の懇談会・研修等に参加していただきます。

#### 4 活動場所

筑波大学中央図書館及び体育・芸術図書館

#### 5 活動期間

平成17年4月1日～平成18年3月31日

### II 応募について

#### 1 募集人数

若干名

#### 2 応募方法

「問い合わせ先」まで所定の書類をご請求ください。申込希望者には申込書を送付しますので、郵送でご応募ください。なお、応募書類は返却しません。

#### 3 応募期間

平成17年2月1日（火）～2月18日（金）〔必着〕

#### 4 選考

申込書による書類選考の上、2月23日（水）または2月24日（木）に面接を行います。なお、面接の結果は3月1日（火）までに通知します。

### III 登録について

#### 1 登録

活動予定者には、ボランティア活動開始前に、活動に必要な知識や理解を得ていただくために、事前研修を受講していただきます。事前研修終了後、附属図書館長の許可を得て、ボランティアとして登録されます。

研修日程：平成17年3月7日（月）～11日（金）

いずれも午前10時～12時（計10時間程度）を予定しております。

#### 2 保険

ボランティアとして登録された方には、ボランティア保険に加入していただきます。

手続きは一括して行うので、保険料の個人負担と個別の手続きは不要です。

#### 3 その他

報酬・交通費等の支給はありません。

本学附属図書館の利用証を発行します。

### IV 問い合わせ先

〒305-8577 つくば市天王台1-1-1

筑波大学附属図書館 情報管理課 TEL 029-853-2348〔直通〕

URL <http://www.tulips.tsukuba.ac.jp>

# 平成17年度筑波大学附属図書館ボランティア申込書

平成 年 月 日

筑波大学附属図書館長 殿

申込者 <sup>フリガナ</sup>氏名 \_\_\_\_\_ (男・女)

写真貼付  
3×2.5cm

生年月日 19 年 月 日生 ( 才)

住 所 〒 \_\_\_\_\_

電話番号 ( \_\_\_\_\_ ) \_\_\_\_\_

Eメールアドレス \_\_\_\_\_

緊急時の  
連絡先 { <sup>フリガナ</sup>(氏名) \_\_\_\_\_ (続柄: \_\_\_\_\_ )  
(機関名・住所) \_\_\_\_\_  
(電話番号) ( \_\_\_\_\_ ) \_\_\_\_\_

下記のとおり、ボランティアとして活動したいので申し込みます。

なお、ボランティアとして登録された上は、貴大学の学内規則を遵守します。

## 記

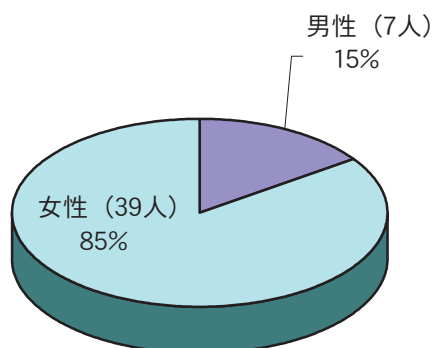
新規 ・ 更新	
<b>志 願 動 機</b> <b>(必須)</b> ※更新申込者も記入してください。	
<b>希望する活動</b> <b>(必須)</b> ※希望順位を記入してください。 (希望しない活動については空欄可)	(1) 総合案内カウンター活動 順位 [      ] (2) 総合案内カウンター活動+対面朗読 順位 [      ] (3) 利用環境整備 (中央) +対面朗読 順位 [      ] (4) 利用環境整備 (中央) 順位 [      ] (5) 利用環境整備 (体芸) 順位 [      ] (6) 体育・芸術関係資料整理 順位 [      ]

希望する活動 (選択) ※ [ ] の中に○を付 けてください。 (複数選択・空欄可) ※順位は不要です。	(ア) 図書館見学案内		[ ]
	(イ) 留学生オリエンテーション補助		[ ]
	(ウ) 外国人のための日本文化紹介		[ ]
	(エ) 利用案内等の翻訳		[ ]
	(オ) 図書館公開事業への協力		[ ]
	(カ) ボランティア広報紙『うたがき』の発行		[ ]
1週間に活動可能なコマ数 _____ コマ			
活動希望曜日・時間		※1年間活動可能なコマに○	
希望順位		月	火
第1希望	午前		
	午後		
第2希望	午前		
	午後		
第3希望	午前		
	午後		
		水	木
		金	
活動希望曜日・時間について特記したいこと ※2コマ以上活動する場合は、各コマ枠の活動内容を明記してください。 例)「月曜午後に“総合”」			
ボランティア活動 に生かせそうな特 技・資格等 ※身体障害者支援、そ の他の項目について は可能なものを選ん でください。 (複数選択可)	外国語 右の1～4からレベ ルを( )内に記入 してください。		英 語 ( ) ※必ず記入してください。
			その他 [ ] 語 ( ) [ ] 語 ( )
	身体障害者支援		対面朗読・ガイドヘルプ・手話 その他 ( )
	その他		パソコン機器操作・その他 ( )
資格等			
ボランティア活動 の経験 (新規申込者のみ)	有 ・ 無		(有の場合) 内容・期間
ボランティア保険 加入予定団体 (更新申込者のみ)	団体名	所在地	市 区 町
健康状態等につい て特記したいこと			

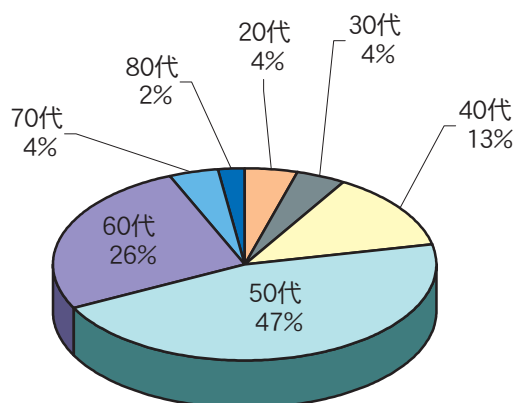


## 平成17年度附属図書館ボランティアの登録状況

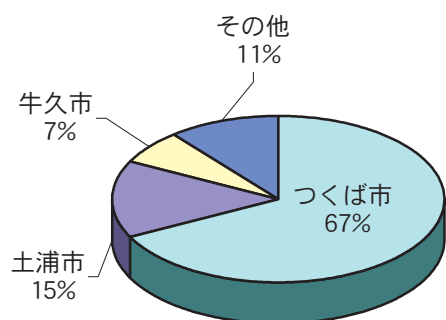
### 男女別



### 年齢別



### 居住地別



### ボランティア登録者の在籍内訳

平成7年より	12名
平成8年より	5名
平成9年より	2名
平成10年より	1名
平成11年より	5名
平成12年より	0名
平成13年より	2名
平成14年より	6名
平成15年より	2名
平成16年より	6名
平成17年より	5名

### ボランティア登録者数の推移

単位＝人

	新規	更新	合計
平成7年度	43		43
平成8年度	14	33	47
平成9年度	11	44	55
平成10年度	3	45	48
平成11年度	13	40	53
平成12年度	3	45	48
平成13年度	7	42	49
平成14年度	7	40	47
平成15年度	5	43	48
平成16年度	11	37	48
平成17年度	5	41	46



## 平成17年度附属図書館ボランティア活動内容細目と担当

活動内容	活動内容細目	活動内容詳細	担当
(1) 図書館総合案内	①館内窓口案内	館内の窓口又はカウンターを案内する。	レファレンス係
	②資料配置・探索案内	資料の配置場所を館内資料配置図により案内し、希望により配置場所へ館内誘導する。	
	③端末操作案内	図書館内の端末を利用した蔵書検索の方法等を案内する。	
	④各種利用申込書の記入指導	各種利用申込書の記入方法を指導する	図書サービス係 レファレンス係
(2) 身体障害者に対する図書館利用支援	①対面朗読	視覚障害のある利用者に対し、対面朗読を行う。	図書サービス係 専門職員
	②音声朗読システム利用支援	視覚障害のある利用者に対し、音声朗読システムの利用を支援する。	
	③資料探索代行	身体に障害のある利用者が館内で資料を利用する際、資料を書架から取り出し、手渡す。	図書サービス係
	④車椅子介助、ガイドヘルプ等館内移動援助	身体に障害のある利用者が館内を移動する際の援助を行う。	
(3) 利用環境整備	主題別フロア整備	中央図書館、体育・芸術図書館各階の書架を整頓するとともに、環境整備を行う。	図書サービス係 体芸サービス係
(4) 図書館見学案内		中央図書館見学者及び各種オリエンテーション参加者に対し、中央図書館内をマニュアルにそって説明し、誘導・案内する。	専門職員 レファレンス係
(5) 外国人に対する図書館利用支援	①外国語による図書館利用支援	日本語に不慣れな外国人利用者の図書館利用を、外国語を使って支援する。	レファレンス係
	②留学生オリエンテーション補助	留学生向けオリエンテーションの補助（館内案内等）を行う。	
	③外国人のための日本文化紹介	日本語で書かれた図書館資料を用いて、日本文化を外国人利用者に紹介する。	専門職員
	④雑誌クリッピング	国際交流コーナー・地域情報コーナーの雑誌の留学生に役立つ情報の切り抜き等を行う	
	⑤利用案内等の翻訳	図書館利用案内等を各国語に翻訳する。	図書サービス係 レファレンス係
(6) 特殊資料整理	体育・芸術関係資料整理	体育・芸術図書館において特殊資料（ポスター等）の整理を行う。	体芸サービス係
(7) 図書館公開事業への協力		附属図書館が実施する公開展示会・公開講演会等について、開催計画に応じ、展示作業・会場設営・会場案内・受付等に協力する。	専門職員
(8) ボランティア活動の広報	利用者向け広報紙「うたがき」の発行	利用者向けボランティア活動広報紙「うたがき」の企画・制作・配布を行う。	専門職員
(9) その他附属図書館長が適当と認めるもの			専門職員

※平成16年度第2回ボランティア専門委員会了承済み  
※専門職員（見学・ボランティア担当）

## 関係文献

- 「図書館特論」(新・現代図書館学講座17) 東京書籍 1998.12
- ・大学図書館のボランティア活動 / 湯浅富士夫ほか p.165-177
- 「筑波大学附属図書館 ボランティア文集」 筑波大学附属図書館発行・編集 1999.1
- 「図書館ボランティア」 図書館ボランティア研究会編集 丸善 2000.2
- ・図書館ボランティア / 森茜 p.103-152
  - ・大学図書館ボランティア -筑波大学附属図書館- / 内藤英雄ほか p.176-203
- 「大学図書館研究」
- ・筑波大学附属図書館における図書館ボランティアの導入 / 佐藤勝則ほか 49, 1996.5, p.37-45
  - ・筑波大学附属図書館における図書館ボランティアの活動 / 気谷陽子ほか 53, 1998.8, p.54-61
- 「LISN」
- ・筑波大学附属図書館ボランティア -大学図書館ボランティアの活動紹介- / 高橋陵子 90, 1997.3, p.5-8
- 「筑波大学附属図書館報 つくばね」
- ・附属図書館ボランティアの活動開始 21(1/2), 1995.7
  - ・附属図書館ボランティア活動報告(1) 21(3), 1995.12
  - ・附属図書館ボランティアの一年 22(1), 1996.7
  - ・ボランティア記念式・講演会開催-大西婦人教育課長をお招きして- 23(1), 1997.7
  - ・3年目を迎えた附属図書館ボランティア活動 23(1), 1997.7
  - ・附属図書館ボランティア記念式・講演会開催 24(1), 1998.6
  - ・附属図書館ボランティア5周年記念式・講演会開催 26(2), 2000.9
  - ・図書館見学承ります! 28(2), 2002.9
  - ・図書館ボランティアを経験して 30(2), 2005.3

## 平成16-17年度ボランティア専門委員会委員

- 委員長 徳田克己(大学院人間総合科学研究科教授)
- 飯田 稔(大学院体育研究科教授)(~H17.3)
- 朝岡正雄(大学院体育研究科教授)(H17.4~)
- 大野忠雄(大学院医科学研究科教授)(~H17.3)
- 吉田 薫(大学院医科学研究科教授)(H17.4~)
- 田畑孝一(大学院図書館情報メディア研究科教授)
- 川野茂美(附属図書館副館長)(~H17.3)
- 星野雅英(附属図書館副館長)(H17.4~)
- 菅原英一(附属図書館情報管理課長)
- 富田健市(附属図書館情報サービス課長)

筑波大学附属図書館ボランティアのあゆみ  
－10周年を記念して－

編集

ボランティア10周年記念誌発行ワーキンググループ  
徳田克己（主査） 菅原英一 山田利英 大久保明美  
海津裕子 牧真理子 横井清和

表紙デザイン

.tud（筑波大学ユニバーサルデザイン研究ユニット）  
小島範子 中西麻実 平谷美佐子

原稿協力

「図・ボラの会」

平成17年5月31日

発行 筑波大学附属図書館

〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1

TEL 029-853-2348

印刷 株式会社イセブ



筑波大学  
University of Tsukuba

